



この製品の製造に使用されている用紙に含まれる木材繊維の30%以上は、適切に管理された森林から切り出されたものです。適切に管理された森林とは、FSCの規定に従い、独立した機関により認証された森林を指します。



印刷にあたっては、生分解性に優れたアロマフリータイプの大豆インキを使用しています。



イオン株式会社は環境の国際規格 (ISO 14001) の認証取得企業です

お問い合わせ先 本報告書の内容やイオンの環境保全・社会貢献活動について、ご質問やご意見がございましたら下記にご連絡ください。
イオン株式会社 環境・社会貢献部 Tel : 043-212-6037 Fax : 043-212-6790 イオンホームページ <http://www.aeon.info/>



木を植えています
私たちはイオンです

Sustainability Report

イオン 環境・社会報告書 2003

—— 私たちがめざしているもの ——





「イオン 環境・社会報告書 2003」の発行にあたっての ごあいさつ

2001年8月21日イオン株式会社誕生と同時に私たちはグループの総称をイオングループからイオンとし「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献することを誓う」不変のイオン理念を具現化すべく、日々「正しい行動」を実践してまいりました。

私たちイオンは正しい行動と利益の追求との間で選択を迫られた場合には、迷わず正しい行動を選びます。私たちは法令の遵守はもとより、正しい行動を実践することで、イオンに関わる全ての人々に対して「誠実」であり続けたいと考えています。又、私たちイオンは21世紀を担う小売業の先駆者として挑戦し続けることが地域社会や人々の生活を革新すると考えます。現状を維持することと変革に挑戦することの間で選択を迫られた場合、迷わず変革の道を選びます。

「お客さま第一」を磁石に「地域一番のサービス」の集合体としての企業であり続けたいと願っています。これらのことは長年「お客さまとともに」取り組んでまいりました、環境保全、社会貢献活動においても例外ではありません。むしろ持続可能な社会の構築が急務となっている今日、企業市民として社会的責任を果たす為、企業活動の中核のひとつと位置づけ、これまで以上に地域の方々とのパートナーシップを育み、循環型社会の構築を目指してまいります。

この度、イオンの2002年度環境保全、社会貢献活動を報告させて頂くにあたり、国際規格であるGRI（グローバル・レポーティング・イニシアティブ）の考え方を取り入れ、経済性、社会性、環境保全という3つの側面からの多面的な報告書と致しました。今後もお客さまの期待と信頼に誠実にこたえながら「夢のある未来」の実現にむけ、勇気を持って、変革に挑戦してまいります。一人でも多くの皆さまにご理解をいただくとともに、ご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

2003年5月



イオン株式会社 代表取締役会長
常盤敏時



イオン株式会社 代表取締役社長
岡田元也

編集方針

1996年より発行の環境報告書は、8回目の今回から「イオン 環境・社会報告書 2003 Sustainability Report（サステナビリティ・レポート）」と名称を変え、副題として「私たちがめざしているもの」とさせていただくことになりました。そして「私たち」とは「お客さまとともに」というもうひとつの大切な意味があります。本レポートではイオンの現状を公開し、それぞれの取り組みにおいて「私たちがめざしているもの」を明示することで、お客さまとともにつくりたい未来へと進む、道標とさせていただきます。

文中のイオンとは13事業合計142社の総称です。イオン(株)はGMS事業^{*}を展開するイオン株式会社を指します。
^{*} General Merchandise Store

レポート対象範囲

イオン 142社

レポート対象読者

お客さまを主な対象としています。さらに株主、グループすべての店舗の近隣住民の方々、お取引先さま、NPOそして従業員などイオンに関わるすべての皆さまも対象とさせていただきます。

レポート対象期間

2002年度(2002年2月21日～2003年2月20日)
今回初めてサステナビリティ・レポートを作成するにあたり、2002年度以前の取り組みについても必要に応じて掲載しています。また、レポート対象範囲において決算時期が異なる等の理由により、一部対象期間が異なるデータには対象期間を明記しています。

Sustainability Report (サステナビリティ・レポート)

自然環境に対する取り組みのみならず、企業活動の経済性・社会性をも観点としてレポートする、持続可能性報告書。本レポートは、国際的なガイドラインであるGlobal Reporting Initiative(GRI)ガイドラインを参考に作成いたしました。

各ページで報告する項目が経済、環境、社会のどの側面についてのレポートであるかを右のアイコンで表示しています。



経済



環境



社会

目次

ごあいさつ

編集方針 1

イオンって、なに? 2

イオンの理念を実践する
グループ企業を紹介します 4

お客さまとともに
“開かれた経営”をめざしています 6

お客さまとともに
イオンを変えていく活動 7

お客さまとともに
“日々のいのちとくらし”を
大切にし豊かにします 10

1)お客さま視点の商品づくりに
徹したトップバリュ 11

2)安全・安心を
つらぬくための管理体制 16

3)パートナーとの信頼関係を深める
取引行動規範 17

4)エコロジー商品の
新たな価値を追求する活動 19

5)バリアフリーへの
積極的な取り組み 20

6)地域とともに生きるために
イオンにできること 22

7)お客さまとの
コミュニケーション活動 24

お客さまとともに
“夢のある未来”を実現します 26

1)お客さまとともに社会貢献活動 27

2)お客さまとともに環境保全活動 36

3)地域のために、
地球のためにイオンにできること 42

環境会計をご報告します 48

ISO14001の目標と実績を
ご報告します 50

イオンの環境マネジメント
推進体制について 52

第三者の評価 53

イオンって、なに？



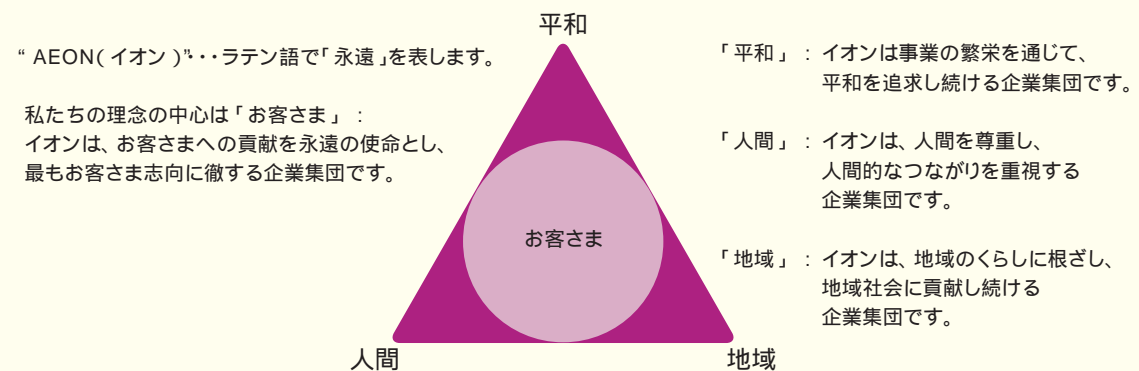
“AEON（イオン）”・・・ラテン語で「永遠」を表すこの言葉に、
私たちは「夢のある未来」をつくるという意味を込めています。
それはお客さまとともにつくる未来でなくてはなりません。
「お客さま第一」これが私たちイオンの行動の基本だからです。

例えば、お客さまの声から生まれた安全・安心なプライベートブランドはその現れです。
お客さまといっしょに木を植える運動もそのひとつです。
行動のすべてがその地域で生きていくために欠かせないこと。

私たちイオンは、いつも考えています。
お客さまにとって本当に必要とされる存在になれているのだろうか。
そんな思いから、お客さまの声を積極的にお店の経営に
採り入れる制度もスタートさせています。

私たちイオンは地域の一員として、毎日のくらしのパートナーとして、
お客さまとともに「夢のある未来」をつくっていきます。

<イオンの基本理念>



<イオン宣言>

イオンは、
日々のいのちとくらしを、
開かれたところと活力ある行動で、
「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。

イオン行動規範導入にあたり

2003年4月、「お客さま」を中心としたイオンの価値観を共有し、
とるべき行動を示した行動規範を制定しました。
今後、行動規範に則り、一人ひとりがイオンの代表であるイオンピープルとして、
お客さま、パートナーの皆さま、他のイオンピープルと深い信頼の絆を
築きあげていきたいと願っております。

<イオン行動規範(抜粋)>

【宣言】

- 一、イオンピープルは、常に多くの人々から支えられていることに感謝し、ひとときも謙虚な気持ちを忘れません。
- 一、イオンピープルは、人々との信頼をなによりも重んじ、いかなる時も正直で誠実な行動を貫きます。
- 一、イオンピープルは、お客さまの期待を感動に高めるため、常に自らを磨きます。
- 一、イオンピープルは、イオンの理想を実現するため、ためらうことなく変革への挑戦を続けます。
- 一、イオンピープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕に努めます。

【お客さまへの誓い】

イオンは、「すべてはお客さまのために」の視点で行動し、お客さまの日々の暮らしに密着した
「安心」と「信頼」を提供します。
イオンは、お客さまの生活文化に貢献することを永遠の使命とします。

【パートナーとイオン】

地域社会とイオン
イオンは、企業市民として、地域の人々とともに、地域社会の発展と生活向上に貢献する代表的な企業を目指します。

取引先とイオン
イオンは、「お客さま満足」の実現のため、革新的な経営に挑戦する取引先を尊重します。
そして、公正な取引を通じ、対等なパートナーとして、お互いの繁栄を目指します。

株主とイオン
イオンは、革新的で健全な経営に努め、経営のパートナーである株主の皆さまに、高い株主利益を実現します。

【イオンピープルとともに】

お客さま満足を実現するにあたって、私たちが大切にしなければならないこと、
それはゆるぎない人間関係と働きがいのある職場の実現です。
働きがいのある職場がなければお客さまの満足も実現することは出来ません。
それは私たち一人ひとりが創っていくものです。

イオンの理念を実践するグループ企業を紹介します



私たちイオンは国内外において

小売業を中心に様々な業種・業態が集まるグループです。

私たちは世界小売業ランキングトップ10入りをめざす

「グローバル10」を長期目標に掲げ、グループ体制の強化を目指しています。

事業の一つひとつが、ベストプラクティス（成功事例）を追求し、

それを共有することで互いに成長を続けるイオン独自のビジネスモデルを展開しています。

目標達成のために忘れてはならないのが、お客さまとともに歩むこと。

イオンの理念をグループ全体が実践することで、また一步目標に近づきます。

(単位:百万円)

営業収益(連結対象)

99/02	2,465,828
00/02	2,522,210
01/02	2,738,638
02/02	2,934,592
03/02	3,086,504

(単位:百万円)

経常利益(連結対象)

99/02	60,534
00/02	64,689
01/02	87,415
02/02	114,759
03/02	127,431

事業体別店舗数(2003年2月現在)

事業体名	店舗数
GMS事業	460
スーパーマーケット事業	451
ドラッグストア事業	1,643
ホームセンター事業	57
コンビニエンスストア事業	2,361
デパートメントストア事業	3
専門店事業	2,627
ディベロッパー事業	—
金融サービス事業	62
サービス事業	582
フードサービス事業	332
物流加工・商事事業	—
e-コマース事業	—

ドラッグストア事業の店舗数には、イオン・ウエルシア・ストアーズに参加するイオンの連結対象外の企業も含まれています。
コンビニエンスストア事業の店舗数にはフランチャイズ店も含まれています。



IT'S A CLASSIC
The Talbots, Inc.(米国)



ミニストップ(株)



マックスバリュ北海道(株)
マックスバリュ東北(株)
マックスバリュ中部(株)
マックスバリュ西日本(株)



九州ジャスコ(株)
Jaya JUSCO Stores Bhd.
(マレーシア)
JUSCO Stores(Hong Kong)
Co.,Ltd.(中国)



イオンクレジットサービス(株)
AEON Credit Service
(Asia)Co.,Ltd.
AEON Thana Sinsap
(Thailand)Plc.



(株)ツルハ



クラフト(株)



(株)スギ薬局



(株)ハックキミサワ



(株)グリーンクロス・コア



寺島薬局(株)



イオン(株)

(株)イオンファンタジー



(株)ブルーグラス



(株)コックス



(株)やまや



(株)ホームワイド



ホームマック(株)



(株)ダイヤモンドシティ



イオンモール(株)



イオングループ企業紹介

<http://www.aeon.info/>
> グループ企業紹介 /IR サイト

お客さまとともに“開かれた経営”をめざしています

私たちイオンは「お客さま第一」が経営の原点です。

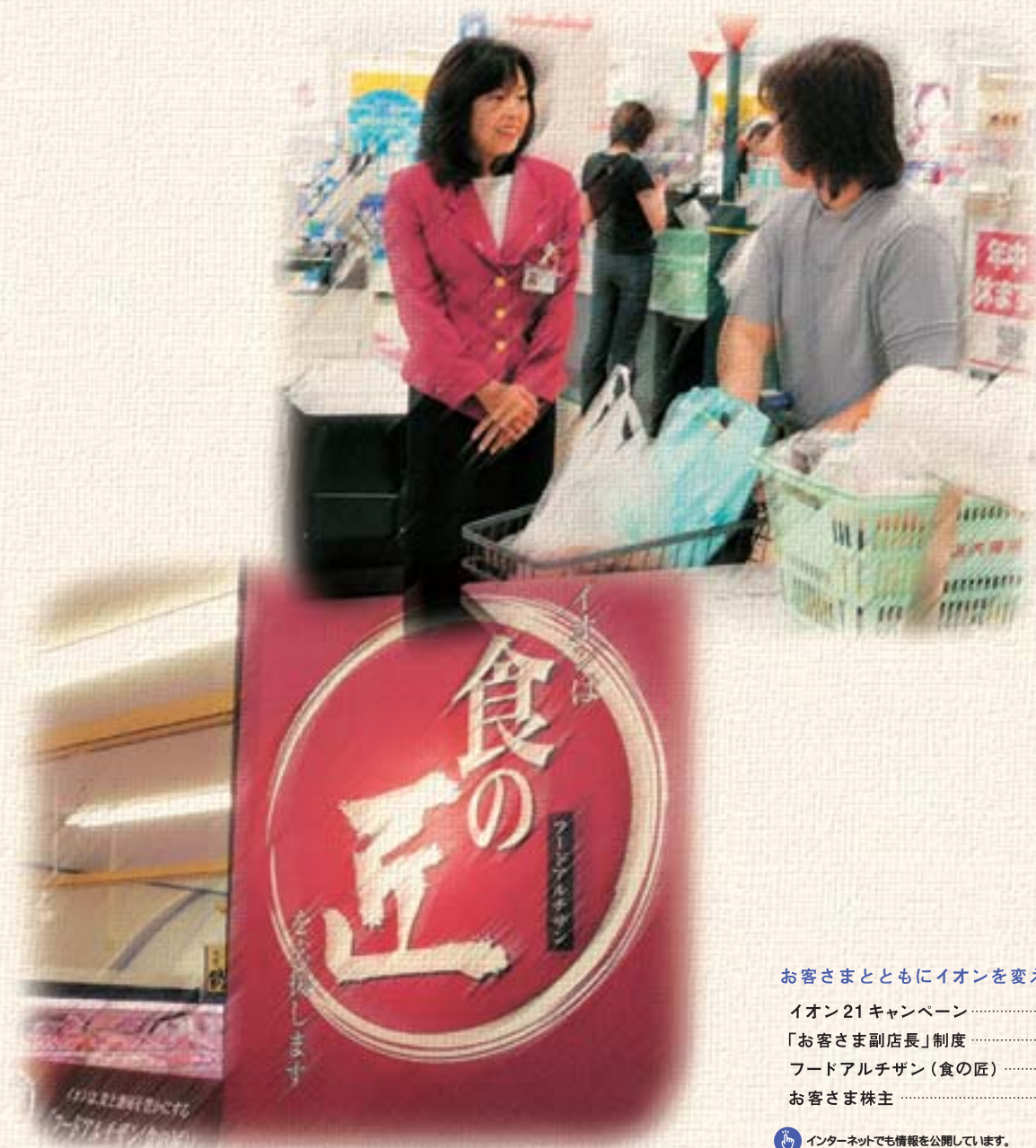
何よりも大切なのは常にお客さまの視点を忘れないこと。

例えば、2002年度よりジャスコ34店では「お客さま副店長」制度をスタートしました。

ジャスコを実際に利用されるお客さまから公募で採用し、

お客さま代表として店舗経営に参画していただくこの試み。

いままでは気付かなかった様々なご指摘をいただいています。



お客さまとともにイオンを変えていく活動

イオン21キャンペーン	p.7
「お客さま副店長」制度	p.8
フードアルチザン（食の匠）	p.9
お客さま株主	p.9

インターネットでも情報を公開しています。

お客さまとともに“開かれた経営”をめざしています

お客さまとともにイオンを変えていく活動

イオン21キャンペーン



＜私たちがめざしているもの＞

「理想とするイオンの姿」について、お客さまのご提案と従業員からの声を募集し、イオンが革新を続けるためにお客さまのお考えをイオンの経営に取り入れたいという思いから実施しているキャンペーンです。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社(68社参加)

【活動を開始した時期】 2001年度

【活動の成果】 応募総数219,627件(お客さま:10,741件 従業員:208,886件)

【目標の達成状況】 131.5%(目標167,000件)

毎回イオンを変えるいろんな声をいただいています。

2001年度の社名変更を機に、お客さまや従業員などから商品やサービス、従業員、企業の理想像などについてアイデアを募る「イオン21キャンペーン」がスタートしています。毎年テーマを設定し、テーマに沿った内容のご提案をインターネットや郵送で受け付けています。ご提案はデータベース化し、今後の経営の貴重な資源として活用していきます。

2002年度のテーマ

「お客さま第一」「平和」
「いのち(人間)」「地域」

受付期間

2002年5月21日～8月18日

表彰内容

内外からの多くの審査委員参加のもと公平な視点から慎重に審査を行い、総計1,002名さまに「夢のある未来」賞を贈らせていただくこととなりました。

「夢のある未来」お客さま賞(2名)	賞金50万円
「夢のある未来」平和賞(1名)	賞金50万円
「夢のある未来」いのち(人間)賞(1名)	賞金50万円
「夢のある未来」地域賞(1名)	賞金50万円

「夢のある未来」企画賞(19名)	賞金10万円
「夢のある未来」グッドアイデア賞(100名)	賞金1万円
「夢のある未来」提案賞(878名)	イオン商品券3,000円分



イオン21キャンペーン

<http://www.aeon-21.com/>

賞金50万円とは別にお客さまのお名前で、お住まいの地域で活躍されているボランティア団体等へ各50万円を寄付贈呈させていただきました。

「夢のある未来」お客さま賞

「お客さまバイヤー認定制度」 柴田茂博さま(三重県)

旅行が大好きでいろいろな国に精通している人、あるいは、ある地域もしくはある国の文化や産物に精通している人などをイオンのお客さまバイヤーに認定してその国・地域ならではの情報を広くお客さまから募る。

寄贈先 社会福祉法人会 三鈴会 知的障害者厚生施設
しらさぎ園

寄贈先 社会福祉法人 和順会 知的障害者厚生施設
鈴鹿和順学園 和順寮

柴田さまは2団体に対し、それぞれ25万円ずつ寄付をしていただきました。

「夢のある未来」お客さま賞

「持ち帰り試着サービス」 下村孝子さま(福岡県)

高齢の方、体が不自由な方のために、洋服などの買物をする際、保証金を払って家に持ち帰り、ゆっくり家で試着できるサービス。

寄贈先 財団法人オイスカ甘木朝倉支局

「夢のある未来」平和賞

「日常生活を国際貢献と結びつけるパイプ役に」 平林妙子さま(愛知県)

途上国産品を適正価格で販売することで、途上国の自立支援などに資する役割をイオンが担う。

寄贈先 Tomorrow's World Organization

「夢のある未来」いのち(人間)賞

「漬物マイスター」 石川成道さま(東京都)

日本の伝統食であるぬか漬けや浅漬けのマイスターを養成し、各店舗に配置。食文化の継承をイオンに期待。

寄贈先 重度障害者通所授産施設 ニーズセンター花の家

「夢のある未来」地域賞

「新しいまちづくりの中で」 中村智彦さま(大阪府)

人との触れ合いや生活の場など、かつての商店街が有していたコミュニティ機能を融合したショッピングセンターづくりを通して、「街づくりの中核」をイオンが担う。

寄贈先 財団法人たんぼぼの家

2003年度に取り組むこと

このキャンペーンは今後も継続して「開かれた経営」を実践していきます。



お客さまとともにイオンを変えていく活動

「お客さま副店長」制度



< 私たちがめざしているもの >

一般公募より選ばれた「お客さま副店長」が地元のお客さまの代表として店舗経営に参画する制度を通して、より地域に密着した「ベストローカル」をめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)、九州ジャスコ(株)

【活動を開始した時期】 2002年度

【活動の成果】 34店舗で実施

89名の「お客さま副店長」が活躍中です。

「イオン21キャンペーン」第一回のご提案の中から採用された制度です。「お客さま副店長」の任期は1年です。2002年度は34店舗で合計89人の「お客さま副店長」が誕生しています。



「お客さま副店長」はこんな仕事をしています。

お客さまの立場から、品揃えや商品の善し悪し、接客姿勢、店舗サービスの充実などを厳しくチェックします。

お客さまの声を積極的に聞きます。「お客さま副店長カウンター」での対応はもちろん、店内巡回でお客さまに声をかけて意見を聞きます。

従業員とのコミュニケーションも重要な仕事です。従業員が考えていることや不満、会社への意見、個々の売り場で聞いたお客さまの声を収集し、働きやすい職場づくりなどに反映します。

「お客さま副店長」の皆さんにお話を伺いました。

「従業員の方からの相談も増えてきました。」

週に3日から4日くらい出社しています。お店にいるときにはお客さまにお声をかけたり、商品の陳列を整えたり、値札の



中島泰子さん

チェックをしたり…従業員の人からも相談を受ける機会も増えてきました。言いにくい内容の場合は、私が感じたこととして角が立たないようにすることもあります。従業員更衣室の床を掃除のしやすいビニール製に変えたときは、皆さんに良かったと言ってもらえました。

「もっとスムーズにお買物ができるお店が理想です。」

最近の反省点としては、たまに会社の立場で考えることがあり、ハッとすることです。残りの任期は常にお客さまの立場で考え、行動することに注意したいと思います。今後の目標としては、お店のどこに何があるかが、すぐに分かるようにしたいことです。お店が広いですから、もっとスムーズにお買物ができるお店にすることが理想です。



山本唯子さん

「お客さまにいい意味でのお節介を発揮しています。」

近所に住んでいることもあって、お客さまには知り合いが多く、お店の中だけでなくこどもの保護者会などでも、よく質問されたりします。お客さまがとまどっているときにも、この制服があるのでいい意味でのお節介が十分に発揮できそうですね。私たちが勤めてから、大きく変わったことは2階の連絡



新保明美さん

通路が全面禁煙になったこと。未成年者の喫煙を防ぎ、たばこのにおいが無くなり喜ばれています。それと赤ちゃんが座れるB型タイプのカートしかなかったんですが、この2月から、新生児を寝かせておけるベビーカーシートのカートを導入できたことですね。

2003年度に取り組むこと

真の「お客さま第一」を実現する店づくりにかかせない制度として、全国の店舗にこの取り組みを拡大していきます。

フードアルチザン(食の匠)



< 私たちがめざしているもの >

郷土のなつかしい味などへの関心が高まる今、優れた技術を持つ生産者の皆さまとともに日本の優れた食文化の継承を担い、さらには地域経済の活性化に貢献することを願っています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)、九州ジャスコ(株)、琉球ジャスコ(株)

マックスバリュ(株) 全社

【活動を開始した時期】 公募開始2002年度

【活動の成果】 現在までに100品目発売

今、食生活は、大きく変化しています。

近年、食の安全性への関心が高まる中、美味しく安心して食べることができる“地域独自の味”や“昔なつかしい味”へのニーズが増えています。

フードアルチザン(食の匠)活動を開始しました。

このようなお客さまの声にお応えるために、優れた技術で郷土の味を守り続けているフードアルチザン(食の匠)の皆さまにご賛同いただき、対等なパートナーシップ精神のもと、食文化を通じてお客さまに感動をお伝えし、さらには地域経済の活性化に貢献できることを願っています。



2002年11月より、フードアルチザン(食の匠)商品の販売が始まっています。

2003年度に取り組むこと

さらに多くのフードアルチザン(食の匠)の皆さまにご賛同いただき、全国の店舗へこの取り組みを拡大していきます。

お客さま株主



< 私たちがめざしているもの >

開かれた経営を実践する一環として、お店をご利用いただいているお客さまに株主として経営に携わっていただき、ご意見をいただくことでよりよいお店づくりをめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)

お客さまにこそ株主になっていただきたいと思います。

日頃お店をご利用いただいているお客さまにこそ、イオンの経営や取り組みをさらにご理解いただきたい、との思いから「お客さま株主」という言葉が生まれました。1,000株から100株に株式の売買単位を引き下げること、株式を取得しやすいように改め、イオンの未来に参画していただく試みです。

お得な「イオンオーナーズカード」を発行しています。

8月20日、2月20日の株主名簿に基づいて100株以上保有の新規株主様に「オーナーズカード」申込書をお送りし、お申し込みの方に「イオンオーナーズカード」を発行します。半年間のご利用金額に対して保有株数に応じた返金率でキャッシュバックをするしくみです。



2002年度株主総会後の懇親会。楽しく談笑している中から出てきたひとことが、イオンの未来を変えるかも…



お客さま株主の名称は使用しませんが、九州ジャスコ(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ西日本(株)、(株)ダイヤモンドシティ、イオンモール(株)も株式の売買単位を1,000株から100株に引き下げています。



「お客さま副店長」制度

<http://www.aeon.info/aeoncorp/>

フードアルチザン(食の匠)

<http://www.aeon.info/artisan/>

お客さま株主

<http://www.aeon.info/aeoncorp/>

> お客さま株主について

お客さまとともに“日々のいのちとくらし”を大切にし豊かにします



私たちイオンは、生きることと暮らすことに深く関わっています。

安全・安心な食品は当然のこと、製品の原材料についても細心の注意を払っています。

そして原料を供給してくれる人たちの暮らしについても配慮しています。

例えば、(株)イオンフォレストが全国に展開するザ・ボディショップの英国本社では、定番商品の原材料をより高品質なものへの切り替えを検討。

アフリカのナミビアで高品質の原材料調達に成功しました。

同時にビジネスパートナーである女性たちの自立にも貢献しています。

1) お客さま視点の商品づくりに徹したトップバリュ

トップバリュ	p 11
2002年度のトップバリュヒット商品〈例〉	p 12
トップバリュ 共環宣言	p 13
トップバリュ グリーンアイ	p 14
食物アレルギー物質情報表示・ 遺伝子組換え原材料情報表示	p 15

2) 安全・安心をつらぬくための管理体制

生産・販売管理／品質管理	p 16
--------------	------

3) パートナーとの信頼関係を深める取引行動規範

取引行動規範 (サプライヤー CoC)	p 17
コミュニティトレード	p 18

4) エコロジー商品の新たな価値を追求する活動

SELF+SERVICE	p 19
--------------	------

5) バリアフリーへの積極的な取り組み

身体障害者補助犬法への対応	p 20
従業員への介添え教育や手話教育	p 20
イオンハートビル設計基準	p 21

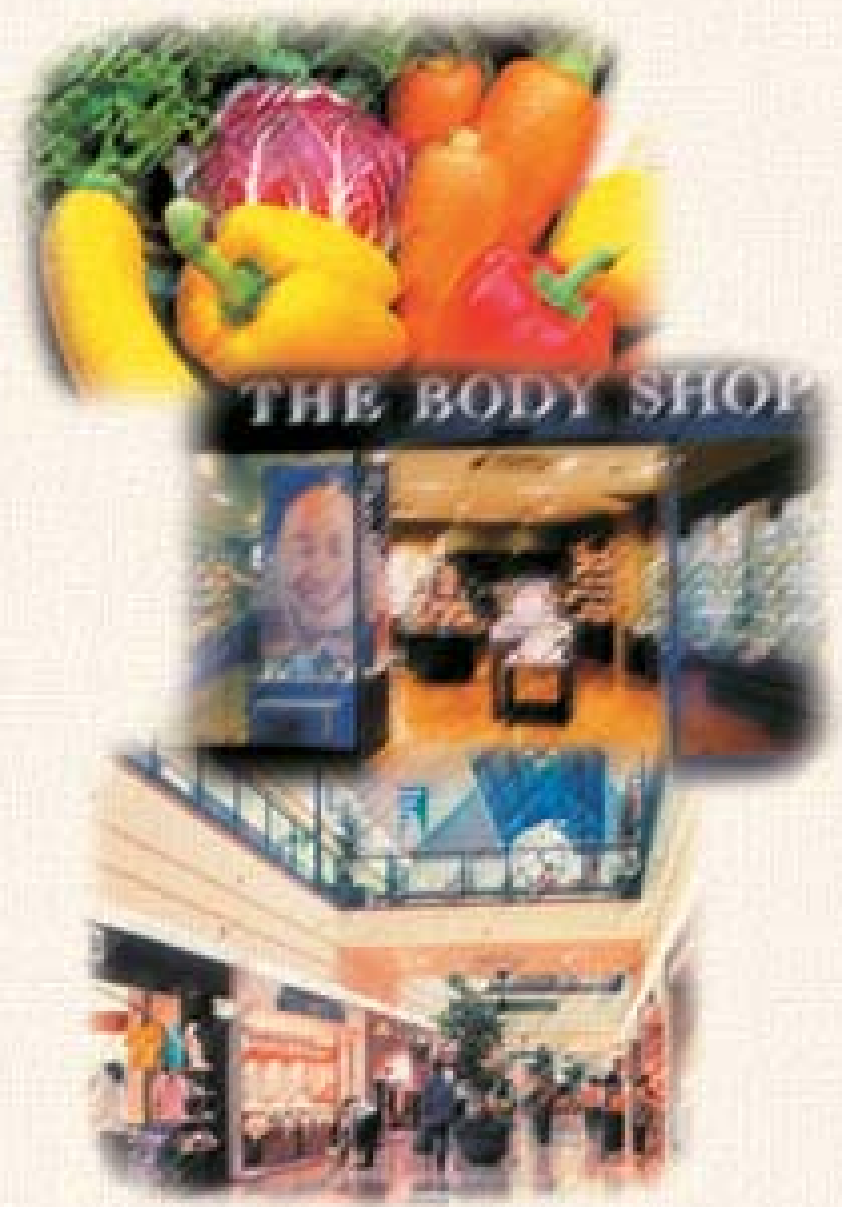
6) 地域とともに生きるためにイオンにできること

新たなイオンビートルとともに	p 22
----------------	------

7) お客さまとのコミュニケーション活動

ご意見承りBOX	p 24
経営へのフィードバック体制	p 24
ミステリーショッパー	p 25

インターネットでも情報を公開しています。



お客さまとともに“日々のいのちとくらし”を大切にし豊かにします

1) お客さま視点の商品づくりに徹したトップバリュ



トップバリュ



< 私たちがめざしているもの >

お客さまのご意見を最大限取り上げ、品質と価格と安全・安心にこだわって、イオンのPB（プライベートブランド）だから信頼できる、と評価していただける「信頼のブランド」をめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】GMS事業(国内)、スーパーマーケット事業、
ホームセンター事業、コンビニエンスストア事業各社
【活動の成果】1,824品目を販売

イオンの思いを託した プライベートブランドです。

安全・安心・正直にこだわり、お客さまの声を最大限に取り入れて開発したイオンのPB(プライベートブランド)。「お客さま第一」を貫くイオンの思いを託した毎日の衣・食・住にかかわる商品シリーズです。1,824品目にもおよぶトップバリュの品々は、「トップバリュ5つのこだわり」を遵守することで、品質に優れ、本当に安全・安心であり、価格にもこだわって、ご満足いただけるものを取り揃えています。



【トップバリュ4つのブランド展開】





1) お客さま視点の商品づくりに徹したトップバリュ

2002年度のトップバリュヒット商品<例>

味にこだわった栄養入り菓子 トップバリュ 栄養プラスシリーズ

健康指向のお客さまの声に応え、不足がちな栄養素摂取機能を付加したお菓子として開発しました。こだわりは味。栄養素だけでなく美味しさも追求しています。栄養素はご要望が高かったカルシウム、鉄分、ビタミンCの3種類。1袋に1日に摂取する栄養分の約3分の1を入れました。栄養素が一目でわかるよう、パッケージにカラー表示。また、酸化を防止するアルミ素材のパッケージを使用しています。

価格:98円



育成環境にこだわり、 身が引き締まって美味しい 鹿児島県産うなぎ蒲焼き

お客さまが安心して食べられるように、養殖から加工までを一貫生産。地下水を利用し、コンピュータで温度管理。えさも適量を与え、身が締まったうなぎに育てます。もちろん、成長ホルモンも肉骨粉、ワクチン、薬類は一切使用していません。味にもこだわり、70店以上の専門店の味を参考にした独自のたれを使っています。その原料も、合成化合物、着色料、遺伝子組換え原料は一切使用していません。

価格:1尾580～980円



驚きの低価格を実現 使いきりカメラフラッシュ付き

お客さまの声を反映し、フラッシュスイッチをわかりやすい黄色にしたり、環境を考慮して包装紙のアルミを排するなどの改善を施しました。ISO400の高感度フィルムを使用し、クオリティの高いプリントを実現。レンズから本体のプラスチック、パッケージまですべてが再利用できる究極のリサイクル商品ですから、環境への意識が高いユーザーに歓迎されています。

価格:24枚撮り498円、39枚撮り698円
販売先:全国4,000店舗で販売



がんこな汚れもしっかり落とす スーパークリーン

「より白く」というお客さまのために、たんぱく質分解酵素、油脂分解酵素など汚れ分解酵素を3種類配合。効率的に汚れを落とします。また、洗濯水中に流れ出た汚れが洗濯物に再付着しないように、再付着防止剤を配合しています。より白く洗い上げるために配合した漂白剤は、雑菌の繁殖も防ぐので、室内干しでもいやな臭いが残りにません。

価格:198円 1.2kg



しっかり磨ける 超極細毛ハブラシ

歯周病が若年層へ広がり、お客さまは歯茎ケアのハブラシを求める傾向にあります。そこで、狭い歯周ポケットの中の歯垢や汚れをかき出せる毛先のとがった超極細毛を開発。さらに毛先の平らな普通毛を超極細毛と段差をつけて植毛し、歯の表面の清掃も同時に実現します。磨きやすさや口の中での動かしやすさにもこだわって設計しています。

価格:98円



サビに強く、乗りやすい 27型カラーシティサイクル<10色>

お客さまの声に応え、乗りやすく環境に配慮した自転車です。サビに強いステンレス仕様のパーツを多用しました。いつも安心して乗れるように、フレーム強度はJIS規格を上回っています。また、スカートでも気にせず乗り降りできるパラレル(平行)フレームを採用。カラーバリエーションも豊富です。これだけこだわり、10,000円というお値打ち価格を実現させました。

価格:10,000円
3段変速内装車は13,800円



形態安定 消臭加工 紳士白ドレスシャツ

「自分の体に合うサイズがない」お客さまのサイズに対するご不満を解消するために、合計98サイズという豊富なサイズ展開にしました。重視したのは、サイズばかりではなく、形態安定加工、消臭加工などの機能性や、品質の良いエジプト綿と新合繊を用いることで、ソフトで着心地の良い商品に仕上げています。

価格:1,900円



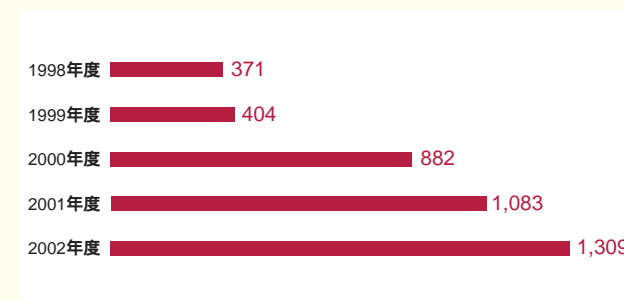
厳寒地の良質の羽毛を使っています 羽毛布団

厳しい自然を生き抜く水鳥の胸の柔らかなごくわずかしかとれないダウンを90%使用。弾力、暖かさが違います。羽毛の吹き出しを防ぐよう高密度に織られたツイルとサテンを側生地に選び、貴重なダウンをやさしく、大切に包んでいます。さらに羽毛ふとんの均一な保温性、快適さのために立体的な特殊キルティングを施し、衿元までダウンがいきわたる衿返し加工により暖かく包みます。

価格:シングルロング15,800円



トップバリュ売上高推移(億円)



スーパー100使用の紳士用スーツが1万円で登場!!

2003年4月より1万円スーツが一気に進歩します。スーツの着心地を左右する一番のポイントは素材。今回はとにかく人気の高い“スーパー100”を使用して1万円を実現。縫製も機能も、もちろん高品質。サイズも豊富にご用意して、ショートタイムショッピングを実現しています。

トップバリュ 共環宣言

<私たちがめざしているもの>

資源を回収して再生する。大気や水質をできるだけ汚さない。自然素材を活かす。環境保全にこだわりお客さまが繰り返し使いやすい商品を追求していきます。

2002年度の実施状況

【活動を開始した時期】 2000年度

【活動の成果】 250品目を販売

トップバリュ 共環宣言は、未来の子どもたちに美しい自然を残すため、環境に配慮した商品をお届けするブランドです。また、環境保全の一環として、店頭にリサイクル回収ボックスを設け、お客さまが商品お買い上げ後の資源ゴミ回収にも力を注いでいます。
店頭リサイクル回収についてはP40をご覧ください。

無添加ポリエチレン使用 共環宣言 食品保存ラップ・食品保存ミニラップ

燃やしてもダイオキシンが発生しません。ポリエチレン製でありながら十分な粘着力をもったラップです。トウモロコシ等のデンプンを原料とした成分解性プラスチックの刃を使用しており、切れ味抜群ながら、ご使用後は、燃えるゴミとして捨てられます。

価格:食品保存ラップ 98円 30cm×40m
食品保存ラップ 88円 22cm×40m



洗剤を使用しなくても汚れが落とせる 共環宣言 重曹電解水クリーナー

汚れ落ちがよく、安全で環境に配慮した界面活性剤を含まないクリ-ナ-が望まれるいま、食品に使用される重曹の洗浄力に着目。重曹を電気分解して得られるマイナスイオン(重炭酸イオン、炭酸イオン)の高い洗浄能力で家中のお掃除ができるマルチクリ-ナ-です。

価格:598円 500ml



自然素材を使用 共環宣言 天然ゴム手袋 うす手M・中厚手M・中厚手L・極うす

焼却時にダイオキシンが発生しません。天然ゴムは土中で分解する特性があります。

価格:うす手M128円 1組
中厚手M158円 1組
うす手中厚手L158円 1組
極うす198円 10組



トップバリュ
<http://www.aeon.info/>
> トップバリュ

価格はすべて税別です。



1) お客さま視点の商品づくりに徹したトップバリュ

トップバリュ グリーンアイ

< 私たちがめざしているもの >

食品の持つ本来の「美味しさ」や「栄養」を安心して味わっていただくために自然の力を生かして育てた農・水・畜産物を扱うことにこだわり続けます。さらに安全・安心に関する情報のみならず、お客さまの健康で豊かな食生活に役立つ情報や生産履歴の情報開示を積極的に行っていきます。

2002年度の実施状況

【活動を開始した時期】 1993年度 農産物ブランド「グリーンアイ」販売開始
2000年度「トップバリュ グリーンアイ」に名称を変更
【活動の成果】 ホームページで生産情報を開示

健康と自然に配慮し、安全・安心が基本です。

トップバリュ グリーンアイは、食べる人の健康や自然環境のことを考え、より高い安全・安心の提供を目指した農・水・畜産物や、その加工食品のブランドです。



[トップバリュ グリーンアイ5つの基準]

- 1 人工着色料、人工保存料、人工甘味料を使わない食品を扱います。
- 2 化学肥料、農薬、抗生物質などの化学製品の使用を極力抑えて生産します。
- 3 適地、適期、適作、適肥育など、自然力によるおいしさを大切にします。
- 4 環境や生態系の保全に配慮した農業をサポートします。
- 5 自主基準に基づき、生産から販売までを管理します。

エコファーマーを野菜づくりに活かします。

有機をはじめとする、環境にやさしい農業を推進する農業生産者に対して、都道府県知事が認定する「エコファーマー」という制度があります。トップバリュ グリーンアイは、このエコファーマーの認定を受けた農業生産者の方と力を合わせて、それぞれの地域の土地にあった品種や育て方で、旬の農作物を、その地域のお客さまにお届けするという「地域循環型農業」を基本にした野菜づくりを進めています。

インターネットでも生産情報を開示します。

トップバリュ グリーンアイの農産物17品目について、ホームページならびにジャスコ品川シーサイド店(東京都)とジャスコ大和鶴間店の農産物情報公開端末にて、生産情報の開示を始めました。この取り組みは、財団法人 食品流通構造改善促進機構が所有し、独立行政法人 食品総合研究所及び農林水産研究計算センター(農水省)の協力により運用している公的データベース、青果ネットカタログ“SEICA”を活用して、栽培グループの生産者の集合写真、生産者(生産団体)名等の生産者情報や、土作りや肥料・農薬の使用状況などを公開していくものです。



カタログナンバーのある商品の生産情報が検索できます。

生産情報を開示した17品目(2003年1月15日現在)

栽培区分	商品名	栽培区分	商品名
有機農産物 熊本県産	にんじん	無化学肥料栽培 青森県産	りんご
有機農産物 宮崎県産	にんじん	減農薬栽培 熊本県産	トマト
有機農産物 宮崎県産	さといも	減農薬栽培 千葉県産	にんじん
無化学肥料・減農薬栽培 熊本県産	にんじん	減農薬栽培 栃木県産	いちご(とちおとめ)
無化学肥料・減農薬栽培 長崎県産	いちご(とちおとめ)	減農薬栽培 熊本県産	トマト
無化学肥料・減農薬栽培 長崎県産	みかん	減農薬栽培 北海道産	じゃがいも(メークイン)
無化学肥料・減農薬栽培 千葉県産	小松菜	減農薬栽培 北海道産	じゃがいも(男爵)
無化学肥料・減農薬栽培 熊本県産	長なす	減農薬栽培 熊本県産	トマト
無化学肥料栽培 佐賀県産	キウイ		

販売期間、販売店舗は商品によって異なります。

2003年度に取り組むこと

2003年度中をめどに、情報公開の対象商品をトップバリュ グリーンアイの農産物と、輸入農産物ならびにA-Q(イオン農産物取引先様品質管理基準)に適合する農産物に拡大して行く計画です。



トップバリュ グリーンアイ
<http://www.aeon.info/>
> グリーンアイ生産情報検索システム

食物アレルギー物質情報表示 遺伝子組換え原材料情報表示

< 私たちがめざしているもの >

安全・安心・正直な商品を自信を持って提供するために、お客さまが必要とする商品情報内容を分かりやすく開示することでお客さまとのより一層の信頼関係を築いていきます。

2002年度の実施状況

【活動を開始した時期】 1999年9月 遺伝子組換え原材料情報 表示開始
2001年10月 食物アレルギー物質情報 表示開始
【活動の成果】 トップバリュ対象商品すべてに表示
【目標の達成状況】 100%

食物アレルギー物質情報は表示義務の他に、推奨されている19品目も開示しています。

食物アレルギーの原因となる物質「アレルゲン」の表示は、食品衛生法により義務づけられています。トップバリュでは表示義務のある5品目と表示が推奨されている19品目について、それらの該当商品すべてに表示をしています。食物アレルギー物質については、特にお客さまの関心も高い事項であることから、わかりやすさも考慮して表示しています。



[対象食品]

表示義務のある5品目

小麦、そば、卵、乳、落花生

表示が推奨されている19品目

あわび、いか、いくら、えび、オレンジ、かに、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

遺伝子組換え原材料表示を分かりやすく改めました。

2001年に施行された改正JAS法に先駆けて、イオン(株)X当時ジャスコ(株)は1999年9月よりトップバリュなどのプライベートブランド商品に「遺伝子組換え原材料情報」に関する表示をスタートしました。当初はPOP表示から始めましたが、お客さまにとっては表示こそが唯一の選択手段であるため、今では商品パッケージに正確によりわかりやすく表示しています。

[対象食品]

大豆(枝豆および大豆もやしを含む)、とうもろこし、ばれいしょ、なたね、綿実

トップバリュ独自の

食物アレルギー物質情報表示方法

トップバリュ独自の取り組みとして、一括表示外に情報欄を設けています。収穫から製造の過程のいずれかで、対象商品を含んだ他商品と同じ施設・設備を使用している場合もその旨を表示します。

トップバリュ独自の

遺伝子組換え原材料情報表示方法

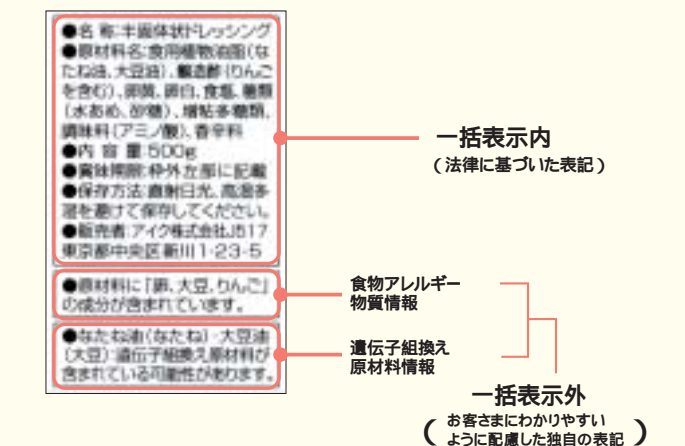
- 1 「バイオテクノロジー応用食品マーク(遺伝子組換えに関するマーク)」をトップバリュ対象商品全品に表示しました。2001年12月に東京都が導入するにあたり、イオンも同時期から表示を実施しました。



- 2 一括表示外に遺伝子組換え原材料情報の欄を設け、わかりやすい文章で表示しました。

食物アレルギー物質情報表示・

遺伝子組換え原材料情報表示<2002年度の例>



食物アレルギー物質情報表示・遺伝子組換え原材料情報表示
<http://www.aeon.info/>
> イオンのこだわり開発商品「トップバリュ」
> アレルギー・遺伝子組換えについて

2) 安全・安心をつらぬくための管理体制

生産・販売管理



< 私たちがめざしているもの >

商品の情報を適切に開示することでお客さまとの信頼関係を築いていきたいと考えています。お客さまの健康を左右する農産物や畜産物、加工品については特に管理を徹底していきます。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)、九州ジャスコ(株)
【活動を開始した時期】 2002年度

牛肉の安全自主基準を設けました。

日本でBSEの発生が確認されてからすぐ、イオンでは牛エクスなど牛由来の成分を使った「トップバリュ」や店内で加工する惣菜の原料にBSEに関する安全の厳しい自主基準を設けました。同時に、お取引先さまに対し、商品に使用されている牛由来原材料の産地および使用部位などについて、調査報告を依頼。安全が確認されていない産地の牛や部位を使った商品計214品目を売場から撤去しました。BSEに関する安全基準を定めたのは、流通業界ではイオンが最初です。



* 国内産牛肉の生産履歴の

情報公開端末を28店舗に順次導入しました。

2002年2月21日には、売場で提示している国内産牛肉の生産履歴に加え、肥育時の飼料等さらに詳しい情報を開示した情報公開端末「お肉の安心確認システム」を、ジャスコ大和鶴間店(神奈川県)の国内産牛肉対面販売コーナーに初めて導入いたしました。この取り組みは全国農業協同組合連合会(全農)が事業主体となって推進する農林水産省の「安全・安心情報提供高度化事業」と連携して行っているものです。導入により、お客さまから“安心してお肉が買える”とお声を多数頂戴しております。お客さまのご好評に応え、2002年5月31日より、この「お肉の安心確認システム」を新たに28店舗の国内産牛肉対面販売コーナーに追加導入しました。さらにご家庭のインターネットで生産履歴等が検索確認できるしくみを、関東1都4県のジャスコでバック販売する国内産牛肉を対象に取り組み始めています。

* 国産黒毛和牛に限定させていただきます。

品質管理



< 私たちがめざしているもの >

安全・安心を正直にお伝えするために、体制の強化を社内は勿論のこと、社外の公正な専門機関や人材を活用することでお客さまの満足のいく品質管理をめざしています。

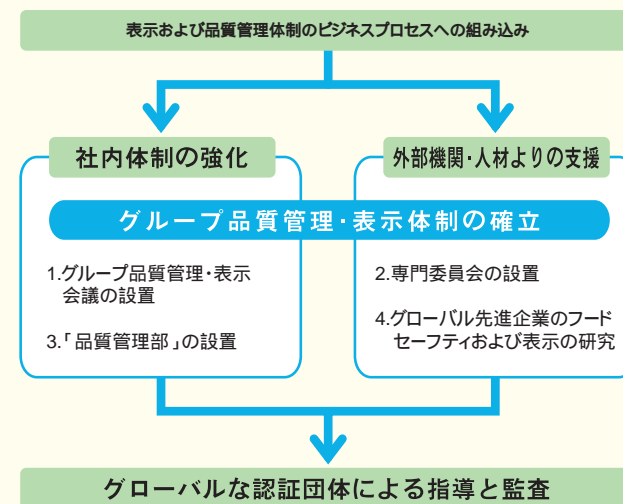
2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)

安全・安心のための体制を強化しています。

商品情報の表示や品質管理体制の強化を目的に、社内にグループ品質管理・表示会議と「品質管理部」を設置しています。あわせて、外部の機関や人材を迎えて専門委員会を設置したり、グローバル先進企業のフードセーフティや表示について研究しています。

イオンの表示および品質管理体制



生産・販売管理

<http://www.aeon.info/aeoncorp/>

> イオンだからできること > 食の安全と安心のために

3) パートナーとの信頼関係を深める取引行動規範

取引行動規範 (サプライヤーCoC*)



< 私たちがめざしているもの >

イオンが提供する商品は安全、品質はもとより、倫理、人権や適正な労働環境によって生産されていることを、イオンとお取引先さまが明確に把握し、管理していくことをめざしています。 * CODE OF CONDUCT

お取引先さまとの新しい関係づくりに着手しています。

イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)は、国際市場での人道的、倫理的かつ環境にやさしいを主題とする取引を保証するために作成されています。商品の生産現場での従業員は倫理的に処遇され、良好な職場と生活条件ならびに適正な賃金を与えられる必要があります。これらが充足されることが、予期せぬリスクを回避でき、順調にグローバルな事業展開をするための必要条件になります。これはお取引先さまにとっても利益につながります。イオンとお取引先さまとサプライヤーCoCを通じてよりパートナーシップを醸成し、共に繁栄していくことができると考えます。

お取引先さまに対する要求内容は
その国の法令遵守が基本です。

取引行動規範を制定するには、まず取引を行う相手の国の法的に定められた社会的責任基準に適合することが重要になります。そのうえで、児童労働や強制労働、安全衛生、賃金および福利厚生などの法令遵守を行うことを条件に、お取引先さまと契約を結びます。当然、発注する側にとっては、無理をさせない計画的な発注を行う義務等が生じます。

チェックする体制(モニタリング機能)を厳しくします。

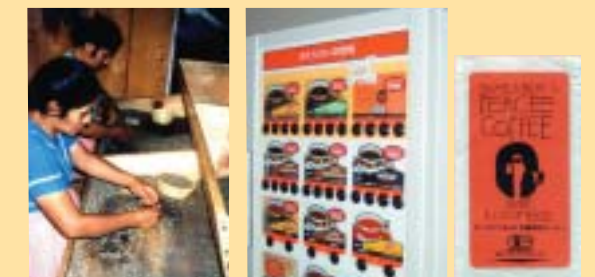
取引行動規範は制定するだけでなく、要求内容通りに実践されなければ意味がありません。例えば、年1回、抜き打ちで第三者機関のチェックをかけることも必要だと考えています。そこまでして初めて、イオンの商品がどのような環境で、どのように作られているか正確に把握し、説明できることになります。

2003年度に取り組むこと

イオン行動規範(P3参照)の中で定めた、お取引先さまとイオンの行動基準を「商品」に反映させるための取り組みを構築していく予定です。最初はトップバリュから実施していきます。お取引先さまとイオンが公正な取引を行うことを商品で示し、さらにその商品を購入するお客さまにも安全・安心・正直を具現化するための担い手となっていただけることをめざしています。

一杯のコーヒーでできる国際貢献

チェルト(株)と(株)グルメドールは、紛争地や難民の自立支援を応援するフェアトレードの一環として、グアテマラ産「ピースコーヒー」を取り扱っています。これは日本のNGOピース ウィンズ・ジャパンが取り組んでいる事業に、両社が賛同したものです。グアテマラは内戦に苦しんできた国で、主要な産物であるコーヒーを安定的に輸入することで、彼らの生活を支えることにつながります。一杯のコーヒーを飲むことで支援になるこのシステムは、普段の生活の中でできる身近な国際貢献です。



3) パートナーとの信頼関係を深める取引行動規範

コミュニティトレード



< 私たちがめざしているもの >

お客さまに商品を通じた社会貢献を提案しています。例えば、優れた原料を商品に採用することでお客さまがお買い求め、結果的に原料を供給する人々の生活支援につながることを理想としています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 (株)イオンフォレスト

【活動を開始した時期】 2002年度

【活動の成果】 新レンジ「ザ・ボディショップ メイクアップ」にコミュニティトレードで仕入れた原料を採用しました。

THE BODY SHOP®

(株)イオンフォレストが全国展開するザ・ボディショップでは、2002年度に新商品「ザ・ボディショップ メイクアップ」を発売しました。この約200アイテムのほとんどには、ナミビアの女性協同組合から調達した「マルーラナッツオイル」を新しい原料として配合されています。マルーラはアフリカ南部では最も知られている樹木のひとつで、ビタミンCが豊富で、果実を生のまま食べたり、ジュースやアルコールの原料にするなどして人々に利用されてきました。近年、マルーラの種子から抽出されたオイルは保湿性が高く、優れたスキンケア効果があることが分かり、商品化に成功したものです。



お客さまに商品を通じた社会貢献を提案しています。

ザ・ボディショップでは、環境保護、人権擁護など「5つのバリューズ(価値観)」をビジネスと社会活動の基盤としています。そのひとつに「コミュニティトレード」があります。社会的・経済的に恵まれない世界各地の先住民や女性、小規模農家などから原材料を継続的に直接仕入れ、公正な取引を通じて地元の人々の医療や教育などの充実に支援するプログラムです。



90年代前半ブラジルの

先住民との出会いが始まりです。

英国本社の創業者アニー・ロディックは、アマゾン流域の森林破壊、乱開発のため窮地にあった先住民に出会い、なんとか支援したいと思い支援策を検討しました。彼らが製菓原料として輸出していたブラジルナッツの油脂がヘアコンディショナーの原料に適していることを知り、圧搾機などを提供して、対等なビジネスパートナーとしての関係を築きました。



ナミビア北部の女性協同組合とコミュニティトレードを開始。

「マルーラナッツオイル」はナミビア北部の天然資源を販売、管理するユーダファノ女性協同組合から購入しています。マルーラの実の採集や加工などで得た現金収入は、子どもたちの教育や家庭の医療、生活必需品の購入に当てられ、女性たちの経済的・社会的発展に役立っています。



2003年度に取り組むこと

6月に発表するフルーツをベースにしたボディケアのレンジなど、新商品の多くにコミュニティトレードで調達した原料を採用していきます。



コミュニティトレード
<http://www.the-body-shop.co.jp/>
 > about the BODYSHOP
 > コミュニティトレード

4) エコロジー商品の新たな価値を追求する活動

SELF + SERVICE



< 私たちがめざしているもの >

「SELF + SERVICE」という名前には「自分自身から環境への意識を高めて、身近でできることから始めよう」というメッセージを込めています。このブランドを通して、「循環型社会」の実現に貢献したいと思っています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)のジャスコ店舗

【活動を開始した時期】 1999年度

SELF + SERVICE

環境に配慮したおしゃれな衣料品・生活雑貨のお店です。

商品開発をプロデュースしているのは、パルコレなどでの活躍でも知られているファッションデザイナーの永澤陽一氏。環境への配慮はもちろん、おしゃれなデザインも楽しみながら選べる衣料品・生活雑貨を次々に発信しています。



合成界面活性剤を使用しない無添加のせっけん、シャンプー



ストレッチ七分袖Uネック



タンニンなめし革小物(ペンケース)



再生PET素材を使用したお買物バッグ

全国でショップ&コーナーを展開しています。

2002年度は7店舗出店し、ショップ数は全部で24店舗となりました。なお、通常の売場でも「SELF+SERVICE」コーナーを運営、衣料品45店舗、寝具35店舗、文具・消耗雑貨79店舗で販売しています。

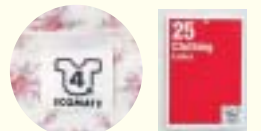


「エコメイト」マークとは？

日本アパレル産業協会が認定基準に基づき、「リサイクル配慮設計商品」と認定した商品につける分別マーク(5つの商品類型があります)のことです。リサイクル可能な商品をわかりやすく表示したものです。

「エコメイト」マーク

「SELF+SERVICE」は日本でもっとも早く店頭で「エコメイト」マーク商品の展開をスタートさせました。



タグ右下に表記



「エコメイト」マーク商品のシャツ

2003年度に取り組むこと

今年の秋頃から、「エコメイト」マークがついている衣料品のリサイクル回収を始める予定です。販売した衣料品をゴミにせず、故繊維業者とタイアップ(再商品化)していきます。はじめはショップ24店舗で実施してまいります。



SELF+SERVICE
<http://www.aeon.info/>
 > JUSCOサイト
 > お客さま情報 > SELF+SERVICEウェブサイト



5) バリアフリーへの積極的な取り組み

< 私たちがめざしているもの >

お年を召した方やお体の不自由な方、もちろん健常者の方にも、安心してショッピングを楽しんでいただくために、建築物自体の様々なバリアをなくしていきます。さらに設備のハード面だけでなく、手話や介添えの技術などソフト面での充実も図り、本当の意味でみんなに優しいお店のあり方をめざしています。

身体障害者補助犬法への対応



2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社
【活動を開始した時期】 2002年度

「身体障害者補助犬法」成立によりスーパーやホテルなどでも身体障害者補助犬を同伴利用できるようになりました。イオンは2002年10月1日の施行に先駆けて、9月11日の「イオン・デー」より、入店を実施。各店舗で行っていた盲導犬同伴のお客さま対応教育に加え、介助犬、聴導犬同伴のお客さま対応教育も実施しています。



店舗の入口にステッカーを貼っています。

キャンペーンで3種の補助犬が勢揃い

2002年11月30日、ボンベルタ伊勢基において、障害者の自立と社会参加の一助になることを願い「身体障害者補助犬キャンペーン」を実施。全国に20頭しかいない聴導犬を含め、盲導犬、介助犬3種の補助犬が一堂に揃い、訓練士と犬のデモンストレーションを行いました。



従業員への介添え教育や手話教育



2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

お客さまがお困りの時にすぐに手助けできるよう、従業員へ車イスの使い方や視覚障害の方を売場へご案内する時のエスコートといったお買物サポート教育を実施したり、ひとりでも多くの従業員に手話を使ってもらうよう、あいさつや代表的な会話を載せたカードを配って携帯するといった取り組みを行っています。売場では2001年度以前に講習を受けた約1,600名の従業員がお客さまと手話で会話しています。



2003年度に取り組むこと

2003年度は、内容を新たにした講習会を開催し、手話教育を充実させていきます。



身体障害者補助犬法への対応
<http://www.aeon.info/>
> ニュースリリース一覧へ
> 2002年9月10日号

イオンハートビル設計基準



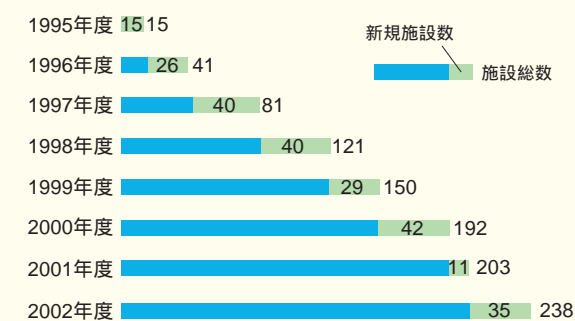
2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)、スーパーマーケット事業、ディベロッパー事業各社
【活動を開始した時期】 1994年度
【活動の成果】 年間35施設、累計238施設が認定済

1994年に施行された「ハートビル法」の取り組みをいち早く始め、同年12月にはジャスコ南方店(宮城県)を全国で第1号の基準適合建築物としてオープンしました。これを機に、イオン独自のきめ細やかな取り組みを加えて「イオンハートビル設計基準」を作成。新しいお店の設計・施工の基準として導入し、238施設がハートビル法の認定を受けています。



ハートビル法認定施設の推移



[バリアフリーの5つのポイント]

- ① 廊下は車いすや視聴覚障害の方が安心して楽に通れる
- ② 出入り口に段差がない
- ③ 階段は手すりがついていて緩やか
- ④ 玄関や部屋のドアは車いすが通れる
- ⑤ 駐車スペースは車いすが利用できる

「イオンハートビル設計基準」では、上記のポイントを守るためにきめ細かく設置・設計の規定を設けています。また、車いす対応の自動販売機やATM等の設置、福祉器具(車いす、老眼鏡等)の貸し出し等、独自の設備整備導入を図っています。

たくさんの人たちの協力で
バリアフリーを推進しています。

イオンモール(株)が参画する第3セクターの「下田タウン(株)」が2002年度バリアフリー化推進功労者として内閣総理大臣表彰を受賞。イオンモール(株)ではショッピングセンターの計画段階から完成まで、障害者や高齢者の方々から意見をお聴きして施設整備を推進。全館段差解消やみんなのトイレを設置することにより、青森県内で初めてハートビル法の認定を受けました。さらに地元NPO団体と提携してショッピングセンター内にデイスビスセンターを開設し、福祉サービスを積極的に行っており、ハードとソフト両面にわたる取り組みが評価されて受賞につながりました。



階段の段差を低くし、両側に2段の手すりを設置しています。床には注意喚起するための床材を使用しています。



階段を誘導する点字プレートをつけています。

地域の避難場所としての役割

私たちは小売業としての役割だけでなく、地域のみなさまにとってさらに役立つ存在になれようかと考えています。私たちには24時間営業のお店がたくさんあります。例えば、地震などが発生した際には災害時のライフラインとして駐車場などを避難場所にするにはできないでしょうか。そんなことを含め、さまざまな検討を始めています。



イオンハートビル設計基準
<http://www.aeon.info/environment>
> お店を拠点とした環境・社会貢献の取り組み
> すべてのお客さまが快適にお買い物できる店をつくること



6) 地域とともに生きるためにイオンにできること

新たなイオンピープルとともに

< 私たちがめざしているもの >

新たに店舗をオープンする際には、できるだけ早く地域の一員となれるように出店する地元から従業員を採用し、その地域のことを良く理解して地域経済の活性化をめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

海外新規出店における雇用状況と
環境・社会貢献活動

東南アジアのジャスコ1号店は1985年にマレーシアのマハティール首相の要請によりクアラルンプールにオープンしました。以来、今年度の4店舗を含めマレーシア、タイ、中国、香港に35店舗がオープンしています。従業員は地元の人々を採用しています。お客さまに安全・安心をお届けしていくことはもちろん、イオンの理念を実践しています。



広東ジャスコの3号店、東莞市へ初出店
とんがガーデンプラザ
「ジャスコ東莞花園広場店」
2002年6月21日オープン。
採用人数(新たにイオンピープルとなった人たち)
社員38人 パートタイマー288人
環境保全、社会貢献活動にも積極的に取り組み、東莞花園広場店のオープンに際しては、同活動の一環として、市内の小学校、中学校に合計1万冊の図書を寄贈させていただきました。

ジャスコ タマン ユニバーシティ ショッピングセンター
「JUSCO Taman Universiti Shopping Center」
2002年8月8日オープン。
採用人数(新たにイオンピープルとなった人たち)
正社員 319名
パートタイマー 244名
カジュアルワーカー(アルバイト) 53名
環境保全活動として2002年7月6日に約11,000本の植樹を実施いたしました。

広東省深セン市への多店舗化を目指し、深センジャスコ1号店が開店
シティプラザ
「ジャスコ城市広場店」
2002年9月28日オープン。
採用人数(新たにイオンピープルとなった人たち)
社員467人 パートタイマー102人
環境保全活動は2002年9月10日にSC敷地に約1,600本の植樹を実施。また、中国国内のジャスコでは初めての試みとなる、生ゴミのリサイクルマシンの導入をいたします。リサイクルで生まれる肥料は、地元の生産農家などへ還元しています。

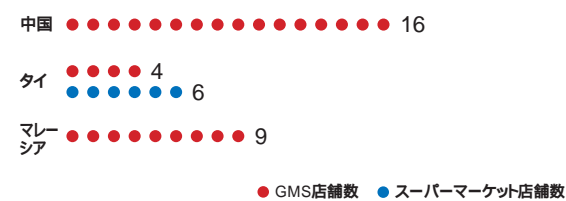
中華人民共和国広東省珠海市への初出店
じゅかいようめいひるば
「ジャスコ珠海揚名広場店」
2002年12月18日オープン。
採用人数(新たにイオンピープルとなった人たち)
社員78人 パートタイマー293人
オープンに際しては、市内の小学校2校に学習用図書購入費として2万円を寄付。環境保全を重点政策とする珠海市政府に街頭設置用大型ゴミ箱80個を寄贈させていただきました。

マレーシアの小売業の将来を担う
人材育成も行っています。

2002年5月、ジャヤ・ジャスコストアーズとマレーシアの一般公開大学「UNITEM」の提携により、働きながら小売業を学ぶことができる「ユニテム・ジャスコ・リテイルセンター」がアルファ・アングルSC(ショッピングセンター)内に設立されました。本校には7ヶ月と30ヶ月の2コースがあり、入学生は一般教養から小売業の専門知識まで幅広く学習する傍ら、マレーシア各地のジャヤ・ジャスコ店舗で従業員として働き、実務研修を受けるものです。授業料は、ジャヤ・ジャスコが援助し、その一部を生徒の給与から控除するしくみ。今年度は、2校目となるジョホール校がタマンユニバーシティSCに開校しました。



GMS・スーパーマーケット事業 海外出店数



国内のGMS事業、スーパーマーケット事業 及びホームセンター事業の年間新規雇用者数 (2002年度創業または新規出店時)



新規出店情報
<http://www.aeon.info/>
> ニュースリリース > ニュースリリース一覧へ

雇用者の数字は2002年度に創業または新規に出店した店舗の開店時における雇用者数です。開店時以降および既存店の雇用者数は含まれていません。



7) お客さまとのコミュニケーション活動

ご意見承りBOX



< 私たちがめざしているもの >

お客さまから気軽にご意見を頂ける環境を整え、必ずお答えを返すことで、お客さまとともにいいお店づくりをめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)、スーパーマーケット事業、ホームセンター事業各社
 【活動の成果】 たくさんのご意見をいただきました。
 【目標の達成状況】 100%お答えしました。

ご意見承りBOXとお返事公開のしくみ

お客さまの声を何より大切にしたい私たちは、ご意見・ご要望に対して、迅速にきめ細かくお答えしていきます。店頭で「ご意見承りBOX」や「コミュニケーションボード(ご意見・ご要望公開ボード)」を設置し、よりご利用しやすい店舗へと改善するために役立てています。これまでも従業員の視点では気づきにくいご意見をたくさんいただいています。ご意見承りBOXに寄せられるカードの一つひとつに必ず目を通し、店長が副店長が可能な限り素早くお返事を書いてボード上で公開しています。また、ホームページ上でも「ご意見承り」サイトを設けています。お客さまの声が商品開発やサービスの改善、そして環境保全活動の原動力となります。これからもどんどんご意見・ご要望をお寄せください。



経営へのフィードバック体制



< 私たちがめざしているもの >

お客さまからの様々なご意見などに迅速に対応して、必ずお客さまにお答えすることを基本とし、商品、サービス、従業員対応をよりよいものに変えていきます。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)
 【活動を開始した時期】 1991年度

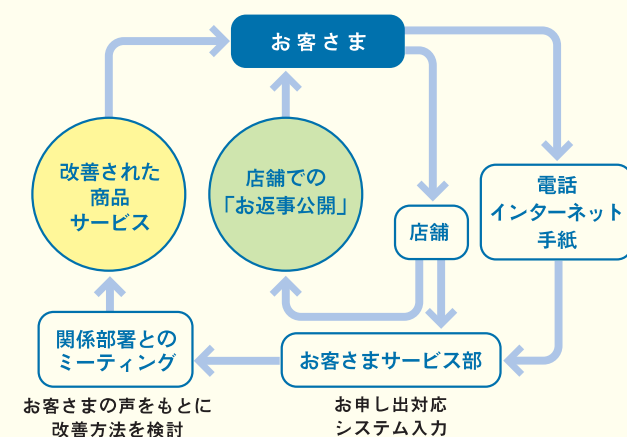
約24,600件^{*}のご意見が寄せられました。

お客さまからの様々なご意見を電話、インターネット、手紙などで承っています。その場でお答えできるものは、その場で対応し、お答えできないものは翌週に関係部署と打ち合わせした後、ご連絡する体制になっています。お客さまの声にはできるだけ早急的確にお答えできるように心がけています。お客さまからいただいたご意見を経営に生かすためにお店や経営者にも報告し、情報の共有化を図っています。

*お客さまサービス部承り分

お客さまの声をもとにしたビジネスサイクル

お客さまから、自社開発商品への不満や改善提案などのお申し出があった場合、翌週には商品担当部署と打ち合わせを行い、改善された商品を迅速に提供いたします。



ミステリーショッパー



< 私たちがめざしているもの >

サービスの基本であるあいさつの徹底とその意味や効果を再認識するために、実施しています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン(株)
 【活動を開始した時期】 2002年度

心のこもったあいさつを身につけるため。

お客さまサービスの基本はあいさつです。常に元気なあいさつを行うことで、お客さまにより必要とされる存在になれます。では私たちはどれくらいあいさつが徹底できているのでしょうか?そのための試みを新たに始めました。名称はミステリーショッパー。覆面調査員が各店舗を回って、あいさつができているかどうかを調べます。誰ができて、誰ができないのかまで調べます。評価が80点以下のお店は、合格するまで何度でも追試があります。あいさつに気持ちが込められているか、そこまでチェックして徹底を図ります。今日より明日、明日よりもさらにみんなが元気のいいあいさつを行えるように、続けていきます。



ご意見・お返事公開制度

<http://www.aeon.info/aboutaeon/>
 > イオン(株)概要 > 開かれた経営を目指して

事故の予防と万一発生したときの再発防止について<例>

< 灯油流出事故の経緯と対策 >

【事故状況】

2003年2月9日(日) 川に油が浮いているとの市民からの通報にもとづき、消防署員がマックスバリュ北海道(株)岩見沢東店へ来店。調査の結果、暖房用灯油が流れ出たものと判明。

【発生原因】

2月3日(月)暖房用灯油タンクが空になっていたため、灯油販売会社に給油を要請。

3日前に給油したばかりで不審に思う。

調査の結果、配管の破損を発見。

【流出量と流出経路】

約600リットル

灯油タンク (約3メートル) 雨水側溝 (約100メートル) 川

【対応】

流出箇所及び河川にオイルフェンスの敷設/灯油タンク周囲・雨水側溝の除雪と洗浄/河川の氷に付着した油分の除去(氷ごと除去)/北海道・国・市・消防といった関係行政との調整/事故に関するお詫びを店頭及び新聞告知/再発防止策実施

【事故から学ぶ点】

- ・油や汚水が流出した場合の経路や影響を事前把握
- ・日常からの設備点検の徹底
- ・事故発生後の迅速な対応と所轄の行政への連絡、社内緊急連絡先への連絡の徹底

【事故防止のための対策・チェック体制の強化】

今回の事故を受け、イオンとしてのリスク・マネジメントに関する会議をトップ・ダウンで立ち上げ、事故対策・チェックを確実に行う体制を整備。加えてイオン(株)では全店の店長宛にチェックを指示。全社的な体制の強化を図りました。

お客さまとともに“夢のある未来”を実現します



私たちイオンは持続可能な経済活動をめざしています。

環境保全など地球のために尽力を惜しみません。

例えばイオンでは、レジ袋削減のためマイバスケット運動を展開。

お客さまの積極的な参加により、原料となる石油の消費を削減、併せてレジ袋の廃棄量削減にも成功しています。

お客さまとともに未来のために有益な活動を続けています。



1) お客さまとともに行う社会貢献活動

イオン・デー	p 27
幸せの黄色いレシートキャンペーン	p 28
イオン「こどもエコクラブ」	p 30
「5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)」運動	p 31
イオン1%クラブ	p 32
財団法人 岡田文化財団・財団法人 イオン環境財団	p 33
イオンの募金活動	p 34
イオン社会福祉基金	p 34
各社で行っているボランティア・チャリティ・募金活動(例)	p 35

2) お客さまとともに行う環境保全活動

イオン ふるさとの森づくり	p 36
買物袋持参運動(レジ袋削減の取り組み)	p 38
店頭リサイクル回収	p 40
地球温暖化防止のためのキャンペーン	p 41

3) 地域のために、地球のためにイオンにできること

地球温暖化防止のための取り組み	p 42
事業活動における環境影響	p 43
廃棄物削減	p 44
グリーン購入・調達	p 46
物流システム	p 47

インターネットでも情報を公開しています。

お客さまとともに“夢のある未来”を実現します

1) お客さまとともに行う社会貢献活動



イオン・デー



< 私たちがめざしているもの >

お客さまとともに日頃から環境や地域貢献についてよく考え、実践していくことをめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

【活動を開始した時期】 2001年度

【活動の成果】 年間12回実施

【目標の達成状況】 100%

毎月11日は「イオン・デー」です。

2001年8月21日の社名変更を機に、毎月11日を「イオン・デー」と名付けてエコロジー(環境)とローカル(地域還元)をテーマに様々な地域貢献活動をお客さまとともに行っています。植樹・育樹活動、清掃美化活動、募金活動など、企業が一市民として地域社会とつながりを持ち、そして地域の皆さまとともに協力しながら実施しています。

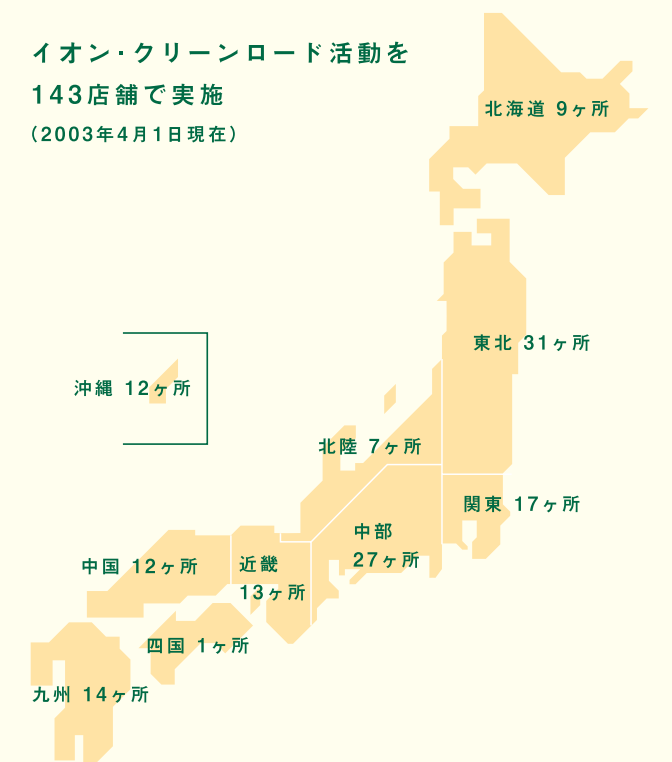
「イオン・デー」はお客さまとともに環境・社会貢献活動を考え、そして行動する日です。

イオン・デーには
イオン・クリーンロードを行っています。

「クリーン&グリーン活動」を発展させて、国土交通省の「ボランティア・サポート・プログラム」活動とタイアップし、店舗周辺の国道を対象に歩道や横断歩道橋、地下横断歩道におけるゴミ収集や植樹帯の清掃活動「イオン・クリーンロード」を行っています。また地方自治体のアドプト・ロード・プログラムに参加し、清掃活動を行っています。



イオン・クリーンロード活動を
143店舗で実施
(2003年4月1日現在)



イオン・デー

<http://www.aeon.info/>ホットプレス>HOTPRESS一覧>Vol.197>

イオン・クリーンロード

<http://www.aeon.info/>ニュースリリース一覧>2001年1月8日>



1) お客さまとともに行う社会貢献活動

幸せの黄色いレシート キャンペーン



< 私たちがめざしているもの >

お客さまが住んでいる地域で行われている様々な活動をご紹介しますとともに、その中で賛同できる活動に対して進んで支援していただける機会を設けることで“夢のある未来”の実現をめざしています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社、マックスバリュ北海道(株)、マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ西日本(株)、マックスバリュ東海(株)、西九州ウエルマート(株)、デパートメントストア事業3社、アピリティーズジャスコ(株)、イオンモール(株) 計13社
【活動開始時期】 2001年度
【活動成果】 3,955万円を品物で還元させていただきました。

地域のボランティア団体を応援しましょう。
毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXをお店に置きます。この日はお客さまがレジ精算時に受け取られた黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れていただくと、お買い上げ金額合計の1%が地域のボランティア団体などに希望される品物で寄贈されます。生活圏内のボランティア団体などとお客さまを結び架け橋となる試みです。活動内容がBOXに記載されていますので、賛同できる団体に黄色いレシートをご投函ください。



助成先の機関誌で
取り上げていただきました。

【支援金額】

登録団体数は3,313団体、年間の投函レシートの実績は約39億5,549万円。その1%にあたる3,955万円を品物で還元させていただきました。

お客さまの幸せの黄色いレシートが街の笑顔に変わるまでのステップ

Step ①



レジで黄色いレシートを受け取ります
毎月11日のイオン・デーにお買い物すると、レジ精算時に黄色いレシートが渡されます。

Step ②



応援したい団体の投函BOXに
黄色いレシートを入れます
受け取った黄色いレシートを、店内備え付けの投函BOXに入れます。BOXには地域のボランティア団体ごとに仕切られ、活動内容が記載されています。応援したい団体のBOXに黄色いレシートを入れてください。

Step ③



集まった黄色いレシートの
合計金額を集計
集まった黄色いレシートは団体毎に集計され、合計金額が算出されます。

Step ④



合計金額の1%にあたる品物を贈呈
合計金額の1%にあたる品物をイオンから該当団体に贈呈します。例えば黄色いレシートの合計が100万円だった場合は1万円分の品物になります。お客さまのご負担はありませんので、ぜひご投函ください。

助成先からこんな声をいただきました。

助成先：ボランティアサークル音景色
村田さまより

イオン(株)ジャスコ新東根店

平成元年十一月、山形県東根市で点字教室受講生二十四人が、「障害を持つ人も持たない人も同じ人間として、共に生きる社会を作り」を基本方針として発足しました。点訳の学習だけでなく、ボランティアのあり方を学び、点字教室開催や障害者と一緒にクリスマスパーティ、視力障害者と一緒にラングライフスキー、小・中・高等学校で点字講座等、活動を行ってきました。「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で、ポケット点字板、点字用紙を頂き、点字教室や学校での点字講座で使わせて頂いております。このような形でボランティア活動に支援をいただける事は、大変有り難く活動しやすくなりました。支援頂いた分、共生できる社会作りに励みたいと思います。誠に有り難うございました。



助成先：日立総合病院ボランティアグループ
星さまより

(株)ボンベルタ伊勢甚日立店

二月二十四日から、ピンクのユニフォームの仲間に、ブルーの仲間が加わりました。「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で頂いた掃除機です。彼女が来てから、部屋の中は見違えるほどきれいになりました。お心遣いを頂きました皆様方に、深く感謝いたします。これからも地域医療発展のために、少しでも役に立つよう頑張りたいと思っています。本当に有難うございました。



助成先：心身障害者小規模通所施設 わかば学園
久保田さまより

マックスバリュ西日本(株)
マックスバリュ今福店 マックスバリュ安田店

私達は買物のしやすさからマックスバリュを利用する人が多いのですが、特に「黄色いレシート」11日は地域の町内会長さんまで、町内の皆さんに呼びかけて下さるなどとして盛り上がっています。「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で頂いた寄贈品の砂糖はわかば学園の代表自主製品であるクッキー・ケーキ作りに欠かせませんので、大変助かっております。黄色いレシートが地域の優しい皆さまの協力を得て、喜んでいいる事を知らせてもっと皆さまに理解していただきたいと思えます。これからも黄色いレシートが広く楽しい事業となる事を心から願っています。



地域の皆さまに向けて店内でのPR活動も行っています。

イオン(株)ジャスコ岡崎南店

2002年夏季のイオンフェスティバル期間中、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」登録団体の方々がお店で募金活動を行いました。いろいろな人たちに活動内容・状況を知っていただきたい、黄色いレシートを通じて登録団体と地域のお客さまとの交流を深めたい、という気持ちから始まった取り組みです。お客さまからも好評で、他の店舗でも取り入れられています。



愛知県災害救助犬協会



日本ヒアリングドッグ協会



ワークスあおい



米山寮

支援チャリティバザーも開催されました。

イオン(株)ジャスコ茅ヶ崎店

2003年1月3日、活動のさらなるご理解と浸透を目的とした「支援バザー」をジャスコ茅ヶ崎店において幸せの黄色いレシート登録団体とともに行いました。お客さまより支援バザー品をご提供いただき正面入口にて開催、収益金の全額は当日のジャスコ直営・専門店の売上金の1%とあわせて、幸せの黄色いレシート登録団体へ寄贈いたしました。



2003年度に取り組むこと

新たに7社がキャンペーンに参加します。マックスバリュ東北(株)(3店舗)、マックスバリュ九州(株)(9店舗)、ローラアシュレイジャパン(株)、(株)メガスポーツ、ペットシティ(株)、(株)グルメドール、ジャック(株)の7社です。これからも参加企業を増やして、より多くのお客さまと地域の団体との交流の場を広げていきます。



幸せの黄色いレシートキャンペーン

<http://www.aeon.info/>

> イオンの環境・社会貢献 > イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン



1) お客さまとともに行う社会貢献活動

イオン「こどもエコクラブ」

< 私たちがめざしているもの >

次の時代の地球がすべての人や生命にとって過ごしやすいものであるために、次代を担う子どもたちへの環境教育を大切に考えています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社、マックスバリュ北海道(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ西日本(株)
【活動を開始した時期】 1996年度

次世代を担う子どもたちに環境について学ぶ場所を提供するために、環境省では1995年より「こどもエコクラブ」事業を提唱し、子どもたちの地域の中での環境学習や実践活動を支援しています。イオンでは、その趣旨に賛同しイオン「こどもエコクラブ」としてイオン全体で活動を積極的に推進しています。2002年度は154クラブ、3,510人の子どもたちと、373人の従業員がサポーターとなって、全国各地のイオンのお店を拠点としてさまざまな活動を行っています。



田んぼの生きもの調査 2002
(農林水産省・環境省協力事業)
どんな生きものがいるかみんなで探しました。



いろいろな行事に参加しました
畑仕事や船の体験学習などを通して環境について学びました。

小・中学生が対象のクラブです。

会員はお店のある地域に住む小・中学生が対象です。入会金も会費も無料です。1年間の活動をサポーターを通じて報告すると「アースレンジャー認定証」がもらえます。



こども環境特派員プログラム2002

滋賀県にある環境学習船「うみのこ」や琵琶湖博物館などを活用し体験学習することで地球環境の大切さを実感しました。



牛乳紙バックリサイクルコンクール 2002に参加しました。
みんなで作った『大きなリサイクルBOX』が団体の部で奨励賞をいただきました。



赤とんぼの「ふる里探し」

7月赤とんぼ700匹の羽にマーキングし、9月にマーキングしたトンボを探しました



こどもエコクラブ全国フェスティバル

1年間のふりかえりを壁新聞として提出し、全国都道府県から選出された代表クラブが長崎県佐世保市で行われた「こどもエコクラブ全国フェスティバルin佐世保」に参加しました。2002年度、イオンではジャスコ御所野店、ジャスコ山形南店、ジャスコ取手店、九州ジャスコ佐賀大和店の4クラブが選ばれました。

「5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)」運動

< 私たちがめざしているもの >

未来を担う子どもたちに、食べることの重要性を、体験を通して学ぶ場を提供していきます。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社
【活動を開始した時期】 2001年度
【活動の成果】 小学生向けの食育体験学習会を年間8回実施

食生活の大切さを体験学習会を通して広めています。

イオンでは、お客さまの健康的な食生活の支援を目的に、1日5皿以上の野菜と200g以上の果物(合計550g以上と5種類以上)を摂取することをお勧めする「5 A DAY」運動を、2001年6月より他に先駆けてスタートさせました。ガンの原因の35%を占めるといわれる食習慣を改善するために、1980年後半、米国で始まった運動です。次代を担う子供たちに「野菜や果物を毎日バランス良く食べること」の重要性、1日に摂取する野菜や果物の種類・品目・摂取基準量などを正しく理解していただくことを目的に実施しました。

お店の食品売場は生きた教材の図書館です。

学習会の最初に管理栄養士の森野真由美先生から、毎日の食品摂取の参考になる「フードピラミッド」についてのお話があります。「一番下に大きく描かれているパンやお米はたっぷり食べて、てっぺんに小さく描かれている甘いものは少しにしようね」絵を使ってとても分かりやすく説明します。その後グループ毎に分かれて「黄色のチームは黄色い野菜と果物を集める」買い物ゲームなどを行い、自分たちで地元でとれた野菜を使ってサラダをつくって試食。質疑応答などを含め全体で70分の学習会です。10回目になるジャスコマリニピア店での「5 A DAY」は、千葉県千葉支庁の「千葉地域農林業ファイブ・ア・デイ」の一環として共催。千葉市高洲第二小学校5年生の児童47名に参加していただきました。



フードピラミッド

(健康な食生活に必要な食品のバランスを図で示したもの。アメリカ農務省が1992年に発表)

果物をたくさんとれば、体力もつくし、集中力もアップするよ!



これまでの食育体験学習会実施店

2001年12月13日 ジャスコ下田店	2002年7月3日 ジャスコ洛南店
2002年2月20日 マックスバリュ茅野店	2002年8月22日 ジャスコ上越店
2002年5月15日 ジャスコ諏訪の森店	2002年10月28日 ジャスコ八事店
2002年5月23日 ジャスコ半田店	2002年11月15日 ジャスコマリニピア店
2002年6月12日 マックスバリュ山形店	2003年2月14日 ジャスコマリニピア店

イオンカップ2002世界新体操クラブ選手権

イオンが冠スポンサーとして後援するこの大会は、94年のボスニア紛争当時に平和を願う選手たちが自主的に集まって開催されて以来、「平和」をテーマにしたスポーツイベントとして親しまれています。今大会の入場収益金の一部は、国連難民高等弁務官(UNHCR)日本・韓国地域事務所を通じて難民の子どもたちに贈られました。



こどもエコクラブ

<http://www.aeon.info/>
> イオンの環境・社会貢献
> 親子で楽しむエコエコバビリオン
> イオン「こどもエコクラブ」

「5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)」運動
<http://www.aeon.info/>
> 5 A DAY (ファイブ・ア・デイ)



1) お客さまとともに行う社会貢献活動

イオン1%クラブ



イオン1%クラブは「環境保全」「国際的な文化・人材交流」「地域の文化・社会の振興」をテーマに様々な活動を行うため1989年に設立されました。グループ優良企業の税引き前利益の1%を「エコロジー・ミュージカル」などの活動資金として活用しています。2002年度拠出額4.33億円、累計拠出額は55.35億円となりました。

【イオン1%クラブメンバー企業】

イオン(株)	ローアアシュレイジャパン(株)
イオンクレジットサービス(株)	(株)イオンフォレスト
ミニストップ(株)	(株)グルメドール
九州ジャスコ(株)	(株)イオンファンタジー
琉球ジャスコ(株)	チェルト(株)
マックスバリュ北海道(株)	(株)イオンテクノサービス
マックスバリュ東北(株)	リフォームスタジオ(株)
マックスバリュ東海(株)	(株)ツウ・アイ
マックスバリュ中部(株)	(株)フードサプライジャスコ
マックスバリュ西日本(株)	アイク(株)
西九州ウエルマート(株)	イオンモール(株)
(株)ホームワイド	(株)ダイヤモンドシティ
(株)ブルーグラス	

イオン1%クラブ主な活動内容

「小さな大使」の交流

「国際的な文化・人材交流」の一環として、次代を担う青少年の国際的な相互理解と親交を深めることを目的としています。1990年の第1回マレーシアから始まり、計11カ国より合計304名が来日。2002年度はインドネシアより高校生24名を招待。ホームステイや体験入学を通し、日本の高校生との交流を深めつつ、環境問題についても、ともに考えました。2003年度は中国・広東省を予定しています。



カンボジアでの学校建設募金

(財)日本ユニセフ協会とともに内戦により教育制度が崩壊したカンボジアに毎年20校以上の学校を寄贈するための募金活動を、2001年度から3カ年計画でスタート。お客さまからの募金と、イオン1%クラブからの拠出金を合わせ、(財)日本ユニセフ協会に寄贈し、2001年度21校、2002年度57校が開校しました。



カンボジア学校開校式ツアー

カンボジア学校建設支援募金で建てられた小学校のうち3校で2002年3月に開校式が行われました。日本からも176名のボランティアが参加し、現地の子供たちと交流を深め、開校の喜びを分かち合いました。またこのツアーの中で、アンコールワット周辺に地元の人達といっしょに植樹活動を実施。土地本来の木の苗木(ラワン・チークなど)を植樹しました。



アフガニスタン復興支援募金

2002年10月はアフガニスタンの市民が安心して生活ができることを願い、募金活動を行いました。お客さまからの募金金額にイオン1%クラブからの寄付金をあわせ、ジャパン・プラットフォームに寄託し、支援活動に役立てていただきました。



地雷撤去のための支援活動

2002年3月、アフガニスタン地雷撤去の一助となるべく、募金活動及びうさぎのサニーちゃんを主人公にした絵本「地雷ではなく花をください」(絵:葉 祥明さん、文:柳瀬房子さん)の販売を行いました。お客さまからの募金金額にイオン1%クラブからの拠出金ならびに絵本の収益金の一部をNPO法人「難民を助ける会」に寄贈し、地雷撤去等に役立てていただきました。



エコロジーミュージカル

「劇団ふるさとキャラバン」とともに、公演する地域のオーディションで選ばれた子どもたちも出演する、自然や森の大切さをテーマにしたエコロジーミュージカル公演を開催してきました。1997年度から2002年度までに「クマゴンの森」「瓶ヶ森の河童(しばてん)」の2作合わせて全国49会場、56,683人の皆さんにお楽しみいただきました。



こどもエコ絵画交流展

1993年より実施している子どもたちの環境に対する関心と自然を大切にすることを養うエコ絵画交流展。2002年度は8,000枚以上の絵画の応募があり、国内20ヶ所のジャスコの店舗と海外4ヶ国で交流展を実施しました。



財団法人 岡田文化財団



(財)岡田文化財団は1979年、三重県の芸術・文化の発展と振興に寄与することを目的に設立(1980年財団設立許可)。現在イオン(株)の株式1,000万株を基本財産とし、主として美術館への作品寄贈、美術展覧会や普及活動などに対する助成、芸術家の表彰、育成援助などを行っています。これまでに400余点の作品(西洋・日本の近代絵画など)約11億円相当の寄贈を行いました。



財団法人 イオン環境財団



(財)イオン環境財団は開発途上国や国内の環境保全を目的とした事業の実施とその助成に永続的に取り組むために1991年に設立されました。1991年から毎年助成先団体、個人を公募・選考し、累計で10億7,797万円の助成を行いました。イオンは(財)イオン環境財団をサポートしています。

環境NGOへの助成

(財)イオン環境財団は地球および地球の環境保全のためには市民の活動が不可欠だと考えて、環境NGOへの助成を行っています。助成先の公募は2002年度で12回目を迎えました。2002年7月1日～8月31日の期間「地球の未来を守るために」を基本テーマに「植樹・緑化・砂漠化防止」「野生生物保護・生態系保全」などの7テーマで募集。257件のご応募をいただき、当財団の選定基準に基づいて137件に助成を行いました。

7つのテーマ別助成先一覧

テーマ	活動内容
植樹・緑化・砂漠化防止	21
野生生物保護・生態系保全	9
自然環境の浄化	3
環境情報の収集・提供	37
環境教育活動	51
国際環境会議参加など	7
その他・地球環境保全活動	9

詳しくは<http://www.aeon.info/koho/hotpress/>をご覧ください。

(財)イオン環境財団のこれまでの公募による助成実績

年度	応募(件)	助成(件)	助成額(万円)
1991	109	59	8,164
1992	122	74	8,003
1993	138	75	8,000
1994	146	86	7,930
1995	130	87	7,900
1996	157	112	8,000
1997	184	138	10,000
1998	190	129	9,950
1999	204	130	10,000
2000	251	147	9,930
2001	325	184	9,920
2002	257	137	10,000
合計	2,213	1,358	107,797

知床の森再生植樹

(財)イオン環境財団は、JR北海道、斜里町及び(財)自然トピアしれとこ管理財団と協力し、知床の森再生植樹を実施。乱開発の危機にさらされていた開拓跡地を買い取り、緑を回復させるため「しれとこ100平方メートル運動」に参加しています。2002年9月5日の植樹活動では、参加者人数約750名。自然生態系の循環再生も視野に入れた100年以上先を見据えた計画の一環として実施され、主に、アカエゾマツの植樹や、シカが若木や成木の樹皮を食べることを防止するためにベットボトルを木に巻きつける作業などを実施しました。



オランウータンの森キャンペーン

2002年11月29日から12月25日、イオン各社で「オランウータンの森を守ろう」ラッピング募金を行いました。絶滅の危機にあるオランウータンを救うための植樹活動を支援しようというものです。ジミー大西さんデザインのイオンオリジナル包装紙をお選びいただいたお客さまに、10円の募金をお願いしました。また、オランウータンのぬいぐるみ5万個も販売。お客さまからの募金金額に、(財)イオン環境財団からの寄付金ならびにぬいぐるみの収益金の一部を合わせて(財)世界自然保護基金ジャパンに寄贈することができました。



イオン1%クラブ <http://www.aeon.info/> > イオンの環境・社会貢献 > イオン1%クラブ
財団法人 岡田文化財団 <http://www.aeon.info/> > イオンの環境・社会貢献 > 財団法人 岡田文化財団
財団法人 イオン環境財団 <http://www.aeon.info/> > イオンの環境・社会貢献 > 財団法人 イオン環境財団



1) お客さまとともに行う社会貢献活動

イオンの募金活動



国内外で起こる地震や洪水などの災害や各種の支援活動に関して、店頭でお客さまに協力を呼びかけたり、従業員同士で声をかけ合って募金活動を行っています。イオンとして全社が一丸となっていて行っている、代表的な社会貢献活動です。今後もお客さまと従業員とイオンがいっしょにできることを推進していきます。



幸せの黄色いレシート登録団体の皆さまや、イオン「こどもエコクラブ」の会員の皆さまとの協力の輪も広がっています。

イオン社会福祉基金



全国の福祉施設の重度心身障害者への福祉の向上をめざすことを目的に、労使協力のもと、1977年9月に設立されました。現在は38社の参加を得て、従業員一人あたり月100円を労使で負担し、基金として積み立てて、その基金を施設給付、ボランティア給付、特別給付として助成しています。

2002年度の実績

施設給付 ... 15施設(1施設あたり100万円を助成)
ボランティア給付 ... 402施設(1施設あたり5万円の助成とボランティア活動)

2002年度の主な募金活動

活動名称(参加企業数)・活動期間	お客さまと従業員からの募金額	イオンからの寄付金額	総額	贈呈先
地雷撤去キャンペーン募金(44社) 2002/3/8 ~ 2002/3/28	1,459万8,590円 絵本の収益金一部含む	1,600万円 イオン1%クラブ寄付	3,059万8,590円	NPO法人「難民を助ける会」
カンボジア学校建設支援募金(60社) 2002/4/21 ~ 2002/7/21	6,448万6,324円	6,300万円 イオン1%クラブ寄付	12,748万6,324円	財団法人日本ユニセフ協会
アフガニスタン北部地震被災地支援募金(56社) 2002/3/29 ~ 2002/4/14	1,312万8,545円	700万円 イオン1%クラブ寄付	2,012万8,545円	財団法人日本ユニセフ協会
アフガニスタン復興支援募金(67社) 2002/9/27 ~ 2002/10/27	2,960万4,515円	3,000万円 イオン1%クラブ寄付	5,960万4,515円	ジャパン・プラットフォーム
「オランウータンの森を守ろう」キャンペーン募金(14社) 2002/11/29 ~ 2002/12/25	1,086万4,669円 ぬいぐるみチャリティ販売収益金含む	1,000万円 イオン環境財団寄付	2,086万4,669円	財団法人 世界自然保護基金 (WWF) ジャパン

2002年度の継続的な募金活動

活動名称(参加企業数)・活動期間	2001年度募金額	2002年度募金額	累計募金額	贈呈先
赤い羽根共同募金 2002/10/1 ~ 2002/10/31	608万5,963円	570万4,310円	11,043万6,764円 (1983年度 ~ 2002年度)	社会福祉法人 中央共同募金会
盲導犬育成支援募金(15社) 2002/8/1 ~ 2002/9/26 2002/11/1 ~ 2002/12/20	1,284万8,048円	1,323万3,581円	12,972万5,066円 (1989年度 ~ 2002年度)	全国盲導犬施設連合会
白血病患者支援募金 2003/1/21 ~ 2003/2/20	537万2,686円	558万9,766円	1,223万4,373円 (2000年度 ~ 2002年度)	特定非営利活動法人 全国骨髄/バンク推進連絡協議会

イオン社会福祉基金

<http://www.aeon.info/>
> イオンの環境・社会貢献 > イオン社会福祉基金

各社で行っているボランティア・チャリティ・募金活動<例>



<私たちがめざしているもの>

お客さま、従業員、イオンが力を合わせて、今できることから全力で取り組んでいくことが何よりも大切だと考えています。その活動を継続する力は、やがて大きなうねりとなって世界中に広がっていくと信じています。

エイズキャンペーン

【取り組んでいる企業】 (株)イオンフォレスト
【活動を開始した時期】 1997年度

ザ・ボディショップの第6回エイズキャンペーン「エイズはみんなの問題です。エイズは世界の問題です。」は、エイズの根本的な問題は人間が作り出してきた貧困や性差などの社会環境であることを訴えました。エイズへの理解を示すシンボル「レッドリボン」のついた関連アイテム(売上の一部を寄付)の販売や店頭募金を通じて、知識や情報がないためにHIV感染から身を守ることでできないカンボジア農村地帯の女性や青少年への啓発活動支援を呼びかけました。2003年度には、神戸で開催される第7回アジア太平洋地域エイズ国際会議、特に青少年によるエイズ対策活動を支援するために、さらにお客さま参加型のキャンペーン、イベントを強化していく予定です。



「スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・東京」へ協賛

【取り組んでいる企業】 ミニストップ(株)、(株)イオンフォレスト
【活動を開始した時期】 2001年度

2002年8月15日~17日の3日間、「スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・東京」が開催されました。ミニストップ(株)では、1,571名のアスリートたちとコーチ、延べ約4,800名のボランティアおよび551名のスタッフの方々のうち、高田馬場と代々木の会場に集まった皆さんの昼食としてお弁当約3,000食を無償で提供しました。また、会場内での配布や片づけも協力しました。(株)イオンフォレストは、ザ・ボディショップのフットケア製品等の物品提供を行いました。メダルをもらったアスリートが、誇らしげにメダルを見せてくれたことがとても印象的でした。



ときめきポイントキャンペーン

【取り組んでいる企業】 イオンクレジットサービス(株)
【活動を開始した時期】 1996年度

カードご利用特典の一つである「ときめきポイントキャンペーン」の返金方法に「環境保全活動・福祉活動への寄付」の項目を設定し、お客さまの善意による寄付を実施。2002年度は6,078,500円の寄付が集まり、社会福祉法人日本点字図書館に4,038,500円、社団法人国土緑化推進機構に2,040,000円を贈呈しました。



ジェフ愛の募金

【取り組んでいる企業】 (株)グルメドール

外食産業の社会貢献活動の一環として毎年11月と12月を中心にお客さまのご協力のもとに「ジェフ愛の募金」活動を行っています。この募金は、世界で飢えに苦しんでいる人々に食糧援助をしたり、環境保全のため植林活動を行っているWFP(国際連合世界食糧計画)や知的発達障害者のためのオリンピックへのボランティア活動を行っているスペシャルオリンピックス日本をはじめ、すこやか食生活協会、国土緑化推進機構へ寄贈し、有効に使われています。2002年度の募金総額は19,073,325円となりました。



「花の輪運動」

【取り組んでいる企業】 ミニストップ(株)
【活動を開始した時期】 1991年度

花の輪運動とは、未来を担う子供たちに「花と緑を協力して植えて育てることを通して、自然や生命の大切さを知ってもらいたい」と財団法人花と緑の農芸財団が取り組んでいる活動です。ミニストップではこの活動に12年間協賛を続けております。2002年度は2,668校の小学校からご応募いただき、抽選で452校の小学校へ花や木の苗を寄贈しました。累計では2,587校になりました。「花の輪運動」は、お客さまからの店頭募金と2002年5月から開始した「土曜日はソフトの日」のソフトクリーム売上金(国内全店舗分)の1%を寄付しております。



エイズキャンペーン

[http://www.the-body-shop.co.jp/](http://www.the-body-shop.co.jp/about%20THE%20BODY%20SHOP)
> about THE BODY SHOP > 人権擁護

花の輪運動

<http://www.ministop.co.jp>
> 環境・社会貢献への取り組み > 社会とのコミュニケーション活動



2) お客さまとともに行う環境保全活動

イオン ふるさとの森づくり



< 私たちがめざしているもの >

地域の皆さまとともに植樹を行い、かつて自然と人間の共生の象徴であった「鎮守の森」の再現をめざしています。既に10年以上約45万人のお客さまとともに木を植えており、日本のみならず世界の植樹活動にも積極的に参加しています。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

【活動を開始した時期】 1991年度

【活動の成果】 植樹304,617本

ショッピングセンターと物流センターの敷地内に、お客さまとともに苗木を植えています。

1991年に植樹がスタートしてから、約45万人のお客さまにご参加いただき、累計で350カ所、約4,562,585本を植樹しました。2002年度には44カ所、304,617本を植樹しています。



生活には森の力が必要です。

イオンは新しいお店や物流センターができるたびに植樹活動を行っています。店舗の周りに森を創ることで、地球温暖化の原因である二酸化炭素を取り込み、太陽からの熱エネルギーを吸収してくれます。さらに森の土壌は保水力が高いので、大雨の時は水を吸収してダムの役割を担ったり、大地に張った根が土砂崩れをくい止めたり、様々な効果があります。癒し効果にも優れた私たちの生活にとって大切な存在である「鎮守の森」。森の力は「夢のある未来」にとっても欠かせないもの。イオンはこれからも、お客さまとともに木を植えていきます。



「イオン ふるさとの森づくり」を始めた理由。

「人類の文明は、緑と水のあるところに繁栄をとげ、そして緑と水を食いつぶしてその文明は滅び去る。ギリシア文明も然り。エジプト文明も然り。現在の文明も何百年後には廃墟と化す可能性がある。」環境破壊への危機をいち早く察知した岡田名誉会長の考えに沿って、小売業を中心とするイオンが、地域の皆さんと手を携えて1991年にジャヤ・ジャスコストアーズ(マレーシア)のマラッカ店から始めました。

その土地土地に合わせた植樹活動をしています。

「木や緑の問題は、生物の一員としての人間が自分の生存環境の荒廃に対して起こした防衛本能的な衝動であることを認識してほしい」との宮脇昭横浜国立大学名誉教授の考えに賛同し、植樹活動が始まりました。「その土地本来の樹木を種々とりまぜて植え、成長を競い合わせる」植樹法を提唱されている宮脇名誉教授に1989年よりご指導をお願いしています。



宮脇 昭 名誉教授

苗木を植えるだけでなく、成長を見守る「育樹祭」を実施しています。

「ふるさとの森づくり」は苗木を植えるだけではありません。植えた後の成長をお客さまとともに見守る「育樹祭」を毎年4月29日を中心とする緑の週間に行っています。除草をしたり、敷地からはみ出た枝をそえたりすることで、病虫害駆除の効果もあるそうです。2002年度は全国101店舗で、施肥や除草、枯れた苗木の補植を行いました。



2003年度に取り組むこと

新しくできる店舗・物流センターに年間33万本の植樹を予定しています。

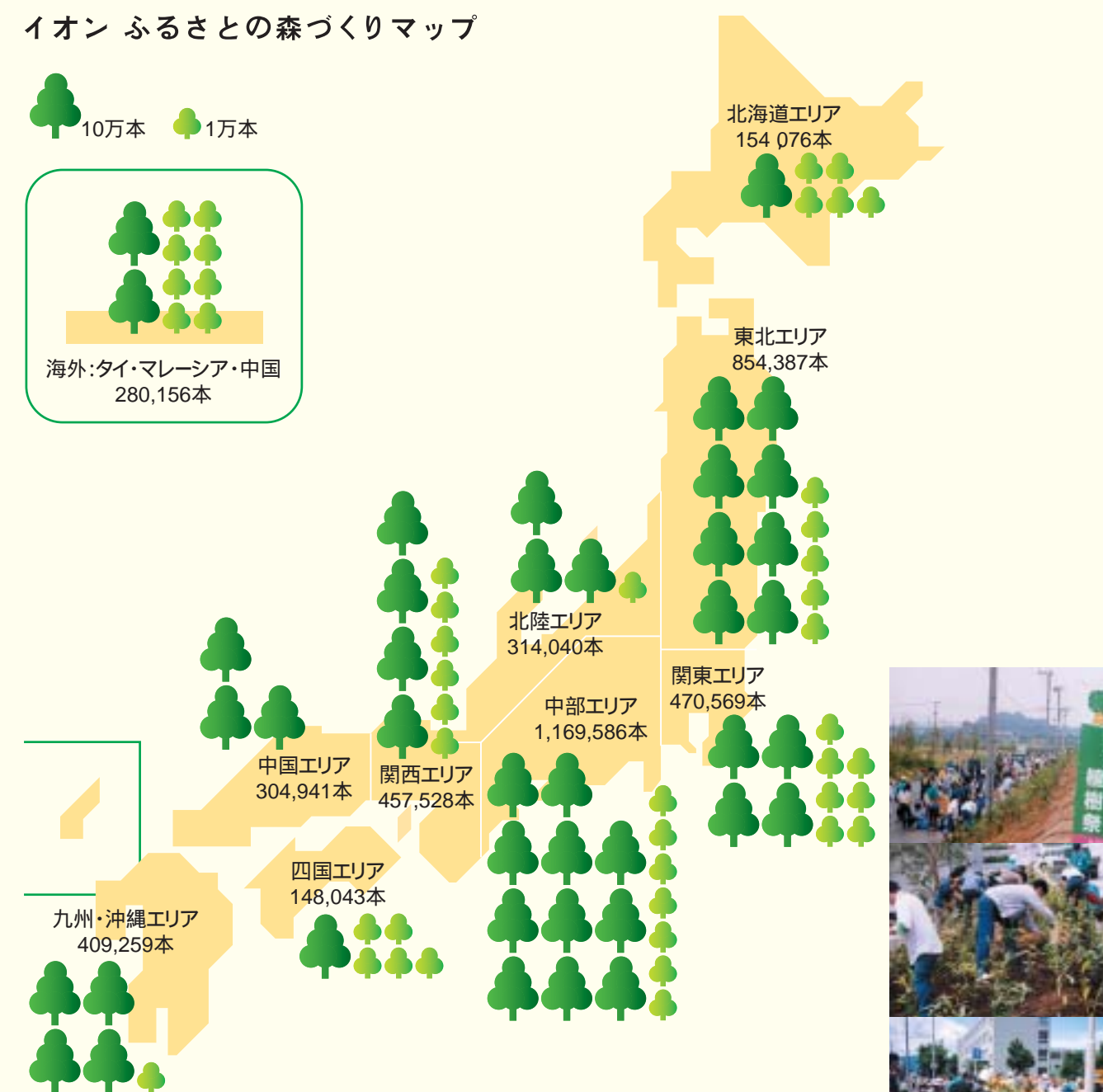
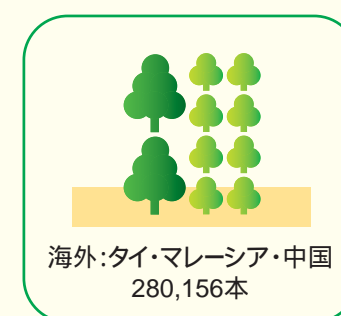
イオン ふるさとの森づくりマップ



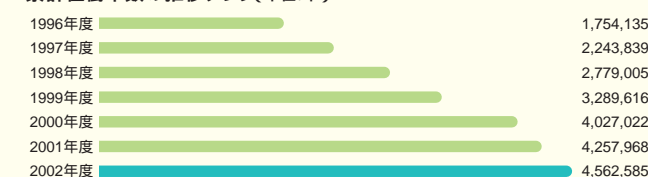
10万本



1万本



累計植樹本数の推移グラフ(単位:本)



イオン ふるさとの森づくり

<http://www.aeon.info/>

> イオンの環境・社会貢献

> 親子で楽しむエコエコバビリオン

> ふるさとの森づくり





2) お客さまとともに行う環境保全活動

買物袋持参運動 (レジ袋削減の取り組み)



< 私たちがめざしているもの >

買物袋持参運動はお客さまとともに行う省資源活動です。ゴミを減らすだけでなく、石油資源の節約や焼却時の大気汚染防止につながっていきます。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社、スーパーマーケット事業7社、コンビニエンスストア事業

【活動を開始した時期】 1991年度

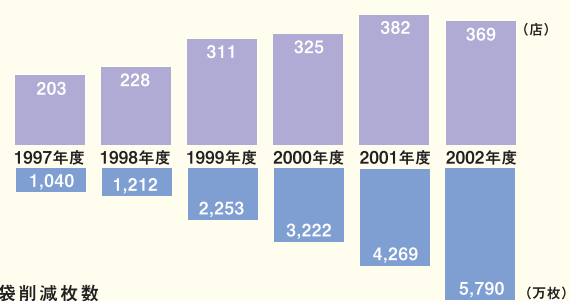
【活動の成果】 年間削減枚数が前年比135.6%(イオン(株)の場合)

「レジ袋削減の取り組み」

- 1 お客さま自身に買物袋を持参していただくことにより、レジ袋の使用量を削減する。
- 2 関連商品として、マイバッグ、マイバスケットを販売する。
- 3 適量のレジ袋をお渡しすることにより、レジ袋の使用量を削減する。
- 4 レジ袋そのものを10%～20%程度軽量化する。

「買物袋持参運動」とレジ袋削減推移(イオン(株)の場合)

買物袋持参運動実施店舗数(期中閉店・譲渡店舗含む)



レジ袋削減枚数

省資源効果(イオン(株)の場合)



計算式 / APME(欧州プラスチック製造協会)の試算では、レジ袋1,000枚作するために必要な消費エネルギーを石油換算すると、32kgとなります。2002年削減枚数57,900,000枚 × 0.032kg = 1,852,800kg
石油1kg = 1.08 (通商産業調査会「エネルギー未来からの警鐘」から引用)とすると、2002年度の石油削減量は1,852,800kg × 1.08 = 2,001,024
2,001,024 ÷ 200 = 10,005.12杯

レジ袋の軽量化で環境負荷を軽減。

【取り組んでいる企業】 ミニストップ(株)

【活動を開始した時期】 2002年度

【活動の成果】 従来製品比約10%軽量化

ミニストップ(株)は、同業大手チェーンの(株)ローソンとレジ袋を共通化しました。両社はこれまでそれぞれの社名ロゴを印刷したものを使用していましたが、ロゴマークをはずし同じものを使用することで環境負荷低減とコスト削減ができるとの考えに賛同し、レジ袋の共通化が実現しました。これにより環境負荷軽減と調達コスト削減を同時に実現することができました。レジ袋の厚さを従来製品より可能な限り薄くし、重量で約10%軽量化しました。また調達コストは約5%削減することができました。2003年1月から、店舗在庫がなくなり次第、全店舗で順次切り替えを進めています。



できることから ひとつずつ
資源を大切に
レジ袋がご不要な方は、お申し出下さい。

企業のロゴをはずし、
お客さまへのメッセージを印刷しました。

すぎなみエコシール事業に参加。

ミニストップ(株)では、2002年11月より、杉並区のレジ袋削減運動の主旨に賛同し、「すぎなみエコシール事業*」に参加しています。区内全店舗がこの事業に参加し、お客さまにもレジ袋削減のご協力をお願いしております。



*すぎなみエコシール事業とは・

レジ袋を辞退したお客さまに対し、事業者と杉並区が2円ずつ負担して4円の価値のあるシールを差し上げ、25枚集めると100円のお買い物券としてエコシール事業加盟店で利用できるというものです。杉並区、区内事業者、お客さまが一体となって買物袋持参を推進することによって、レジ袋の削減をすすめるとともに、区内商店街の振興につながることをめざしていくものです。



レジ袋の軽量化で環境負荷を軽減

<http://www.ministop.co.jp/>
> 環境・社会貢献への取り組み > 廃棄物削減の取り組み

マイバッグ、マイバスケット運動

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社、スーパーマーケット事業7社

【活動を開始した時期】 2000年度

【活動の成果】 マイバスケット使用数累計 436,658個
*累計期間 2000年6月1日～2003年2月20日

レジ袋削減の一環として「マイバスケット」と「マイバッグ」を販売。レジ袋などに詰め替えをせずにそのまま持ち帰りいただくシステムとして好評です。「ご意見承りBOX」にいただいたお客さまの声がきっかけで実現し、実施後も改善のためのたくさんの反響をいただきました。今後も店内放送での呼びかけ、ポスターの掲示、チラシへの掲載など、よりいっそうのご利用を呼びかけていきます。



マイバスケット

破損の場合は無償で取り換えます。液ダレ防止の目的で「底敷きトレイ」をオプションでご提供。他の売場でお買物の際はお預かりコーナーで一時保管します。



マイバッグ
(レジカゴ用)



マイバッグ
(携帯用)

マイバスケットのご利用方法

Step 1



「マイバスケット」は店内サービスカウンターにてお買い求めください(300円)。ご不要になった場合はいつでもご返金いたします。

Step 2



カートに「マイバスケット」を載せ、上から「店内用レジカゴ」を重ねます。

Step 3



精算は通常通りレジカウンターで。従業員が商品を「店内用レジカゴ」から「マイバスケット」に移します。

Step 4



「買物袋スタンプカード」にスタンプを1個押印。スタンプが20個になったらサービスカウンターへ。環境保全型商品(店舗により異なります)を進展します。

Step 5



「マイバスケット」にお支払い済みテープが貼られたら、そのままご自宅へ。

マイバッグの利用方法(レジカゴ用)

Step 1



「マイバッグ」は店内サービスカウンターにてお買い求めください(1,000円)。

Step 2



レジカウンターで従業員へ「マイバッグ」を渡してください。商品を袋詰めします。

Step 3



「買物袋スタンプカード」にスタンプを1個押印。スタンプ20個で環境保全型商品(店舗により異なります)を進展します。

Step 4



商品がこぼれないよう、両サイドに付いた紐で「マイバッグ」の口を絞ります。

Step 5

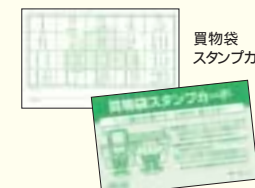


「マイバッグ」は標準的な自転車のカゴにぴったりのサイズです。

推進策として買物袋スタンプカードを展開。

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)3社、スーパーマーケット事業7社
【活動を開始した時期】 1991年度

レジで精算するときに「レジ袋はいらない」とお申し出ください。買物袋スタンプカードをお渡しし、レジ精算1回につき1個のスタンプを押印。20個で環境保全型商品(店舗により異なります)とお引き換えします。開始当初は食品売り場のみでしたが、お客さまの声にお応えし、すべての売り場でご利用いただけるようになりました。



買物袋
スタンプカード

ノー・レジ袋デー

毎月5日は日本チェーンストア協会の「ノー・レジ袋デー」。2002年10月から開始され、協会加盟の101社6,200店舗でお客さまに「レジ袋使用量削減」へのご協力を呼びかけています。



買物袋持参運動

<http://www.aeon.info/>
> 環境・社会貢献 > 買物袋持参運動

買物袋持参運動の名称ではありませんが、デパート・メントストア事業などにおいても同様の運動を行っています。



2) お客さまとともに行う環境保全活動

店頭リサイクル回収



< 私たちがめざしているもの >

リサイクルをすることでゴミは資源に生まれ変わります。お客さまとともにリサイクルできるものは100%回収をめざします。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】GMS事業(国内)、ス・パ・マ・ケット事業各社

資源の回収にご協力ください。

ゴミを資源に戻す「容器包装リサイクル法」が施行されて約3年。当社では、アルミ缶、食品トレイ、牛乳パック、ペットボトル(一部地域)の回収ボックスを店頭で設置し、リサイクル活動を促進してきました。回収された資源を活用して「トップバリュ 共環宣言」として再製品化するしくみも確立しています。



年間1店舗あたりの平均回収量(イオン(株)の場合)



231,607本
アルミ缶



161,490本
牛乳パック



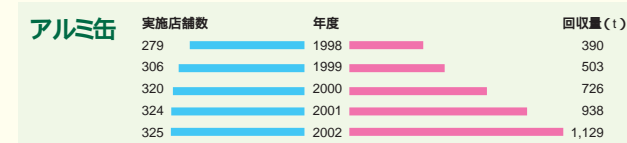
464,979枚
食品トレイ



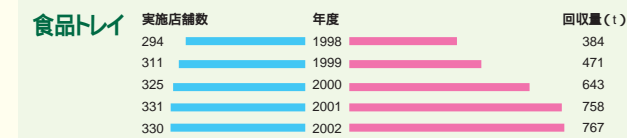
146,044本
ペットボトル

アルミ缶(350ml) 1本=15g、食品トレイ1枚=5g、牛乳パック(1,000ml) 1本=30g、ペットボトル(500ml) 1本=50gとして換算しました。

容器別リサイクル回収量(イオン(株)の場合)



アルミ缶とスチール缶を見分けることはアルミマーク。中身が残っていると再生品の品質が低下してしまいます。



トレイをしばらく家庭で保管していただく時は、お湯でさっと洗い流すと簡単に悪臭を防げます。



使用後は洗って、開いて、乾かして、最後にひもでまとめてください。表面に牛乳が残っていると、再生品にも臭いがつきます。



回収店舗を増やすことが課題です。ペットボトルはかさばるのでつぶしてから回収箱へ。食用油など油のついているボトルは、リサイクルができません。

リサイクル材料を活用した商品〈例〉
(店頭回収原料を有効利用)



全面型3口
ガスレンジ用マット
回収アルミ缶を100%利用しています



トイレトペーパー
芯なしタイプ
店頭回収した牛乳パック30%、古紙を70%使用しています

地球温暖化防止のためのキャンペーン



< 私たちがめざしているもの >

地球環境を守るために、お客さまとともに温暖化防止に挑戦しています。

CO₂ダイエットキャンペーンを実施しました。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】(株)イオンフォレスト

【活動を開始した時期】2002年度

(株)イオンフォレストの展開するザ・ボディショップ全店では、「環境開発サミット」(ヨハネスブルグ)開催にあたり、地球温暖化防止キャンペーンに取り組みました。

地球温暖化防止のメッセージは「ハートン」に決定しました。

ザ・ボディショップで地球温暖化防止のメッセージとして活躍するホッキョクグマの名前を店頭およびホームページで募集したところ、4,518件ものご応募をいただき、厳選審査の結果、「ハートン」に決定しました。



チャレンジ! 20万人のCO₂ダイエット。

日本では家庭より排出される二酸化炭素の増加が問題となっていることをお客さまにお知らせし、具体的な削減策「CO₂ダイエット」を提案しました。ハートンが提案する「CO₂ダイエット」へのチャレンジ宣言として、店頭のグリーンのシールにサインして世界地図型の台紙に貼り、エントリーしていただきました。約800名のお客さまにチャレンジ宣言をしていただくと、緑の大地の大世界地図が1枚完成します。さらに、お友達を誘って一緒にチャレンジすれば効果は2倍、10人で...というように、ひとりでも多くのお客さまにご参加いただくことが地球環境を守る大きな力になることを訴えました。



CO₂ダイエットを提案し、お客さまのご参加をよびかけます。

1年間に1世帯から排出されるCO₂は3,360kg。京都議定書の削減案によると、CO₂ダイエットの目標は561kgです。例えば、シャワーの流しっぱなしを1日1分減らすだけで65kgのCO₂ダイエット、エアコンの温度を1℃ひかえると31kgのCO₂ダイエットが可能です。その他、ショッピングの際、お気に入りのショッピングバッグを使って無駄な包装を省いたり、使っていない部屋の電気を消すなど、日常のちょっとしたアイデアと気遣いがCO₂削減につながります。

アイドリングストップ運動を実施しています。

荷物の積みおろしなど車が駐車している時にエンジンを切って、大気汚染の原因となる排ガスを削減する「アイドリングストップキャンペーン」を継続実施しています。1時間のアイドリングストップでCO₂発生500g~1kgが削減できます。店内放送でお客さまにもご協力を呼びかけています。



アイドリングストップ運動のステッカー



店頭リサイクル回収

<http://www.aeon.info/>

- > 環境・社会貢献活動
- > お店を拠点とした環境・社会貢献への取り組み
- > 使えるものを何度もつかうこと

地球温暖化防止キャンペーン

[http://www.the-body-shop.co.jp/about THE BODY SHOP](http://www.the-body-shop.co.jp/about%20THE%20BODY%20SHOP%20%E7%9C%8C%E4%BF%9D%E6%8A%A4%E3%81%A8) 環境保護



3) 地域のために、地球のためにイオンにできること

廃棄物削減



< 私たちがめざしているもの >

循環型社会を実現するために、廃棄物を削減し、リサイクルを推進し、再資源化の徹底を図ります。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

従業員全員が責任を持って実施しています。

Reduce(廃棄物になるものを、可能な限り持ち込まない)、Reuse(できるだけ、再利用する)、Recycle(使えなくなったものは、再度原料化または、熱化して再生利用)の三原則を「廃棄物管理規定」に沿って取り組んでいます。廃棄

物を見直し、再資源化してゴミの量を減らしています。リターナブルコンテナ使用やハンガー納品も推進しています。さらに従業員の役割意識向上にも努めています。

〔廃棄物管理規定〕

- 1 廃棄物の発生をできるかぎり抑制するための日常的な責務を果たす。
- 2 販促物・販促資材などは、必要な量を発注する。
- 3 商品・販促物・資材などに関して、お客さまのお手元で最終的に廃棄物が発生するまでを視野に入れ、商品販売時の容器・包装・資材などの過剰な取り扱いに十分注意する。
- 4 店頭でお客さまに提供できる環境関連情報は、積極的に開示する。
- 5 廃棄物が異常に発生した場合、および発生しそうな場合は、本社関連部署に連絡し、汚染の予防と拡大防止をはかる。

店舗運営における廃棄物実態調査(イオン(株)の場合)

分別基準		該当物	2001年度リサイクル率 57.7%	2002年度リサイクル率 59.9%
缶・ビン	1	缶	空き缶67.7%	空き缶90.5%
	2	ビン	廃油缶18.2%	廃油缶44.2%
ダンボール	3	ダンボール	41.6%	46.9%
	3	ダンボール	100%	100%
廃食用油 可燃ゴミ	4	廃食用油	100%	100%
	5	紙類	100%	100%
	6	生ゴミ	36.6%	75.2%
	6	生ゴミ	14.6%	18.0%
発泡スチロール	7	雑芥(分別不可能な燃えるゴミ)	0.0%	0.0%
	8	発泡スチロール(産業廃棄物)	これ以上分別不可能なもの	これ以上分別不可能なもの
	8	食品トレイ	60.8%	75.3%
	8	食品トレイ	60.8%	75.3%
廃プラスチック 不燃ゴミ	9	廃プラスチック	ビニール類・廃什器など	ブラハンガー13.9% ビニールプラ4.6%
	10	粗大ゴミ	家電電など	ブラハンガー27.2% ビニールプラ26.6%
	11	蛍光灯	店舗使用(産業廃棄物)	-
	12	電池	店舗使用	3.7%
ペットボトル	13	不燃ゴミ	2.9%	9.9%
	14	ペットボトル	0.0%	18.9%
ペットボトル	14	ペットボトル	41.6%	90.9%
	14	ペットボトル	41.6%	90.9%

2001年度の調査法:2001年7月27日(金)または8月3日(金)のいずれかにジャスコ268店舗、マックスバリュ2店舗、メガマート34店舗で実施。内48店舗で生ゴミ処理機が稼働。
2002年度の調査法:2002年8月2日(金)または8月9日(金)のいずれかにジャスコ220店舗、マックスバリュ52店舗、メガマート35店舗で実施。内75店舗で生ゴミ処理機が稼働。

食品の輸送法を工夫して廃棄物を減らしています。

野菜や果物は産地でリターナブルコンテナに詰め、そのまま売場で「バラ売り」「はかり売り」するシステムやリユースハンガーを使用して衣料品を納品するシステムを採用し、トレイや包装材、運送用ダンボールの削減に効果を上げています。これまで温度保持や衝撃緩和の問題から、リターナブルコンテナの利用は不可能とされていた輸入バナナの搬送にも成功しました。また、生鮮食品の梱包などに使われている発泡スチロール箱は「減容機」によって減量・リサイクル化。2003年2月現在で40台が稼働しています。店舗から出る廃油も100%回収し、せっけんや飼料・肥料として再利用しています。



生ゴミ処理機を導入し、リサイクルを推進しています。

売れ残りや製造過程で発生する食品廃棄物の量を減少させる努力に加え、1994年より生ゴミ処理機を導入し、店舗単位での処理を実施。2003年2月20日現在で計74台が稼働し、1日あたり平均14.8tの生ゴミを減量コンポスト化しています。そこでできた土壌改良材は、毎月19・20日の「お客さま感謝デー」でご希望のお客さまにお配りしています。

売り切りガイドラインを作成して

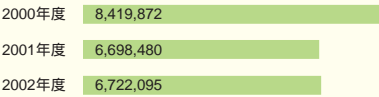
廃棄商品を減らしています。

農産、水産、畜産、サービスデリ、デイリー・ベーカリーなど食品グループ別に売り切りガイドラインを作成しています。鮮度の高い商品を、品切れや売れ残りが発生しないように販売するために、作業場での時間管理や、人気の加工形態への切り替え方法を手順書としてまとめました。高品質を維持するための遵守条項についても詳細を明記して、従業員の意識を高めています。

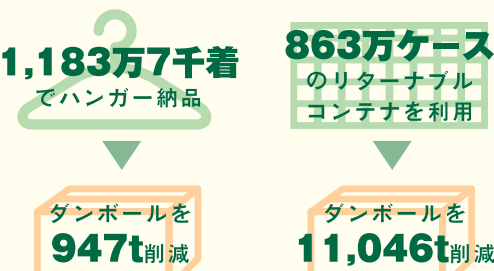
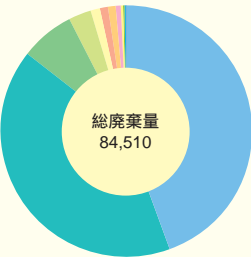
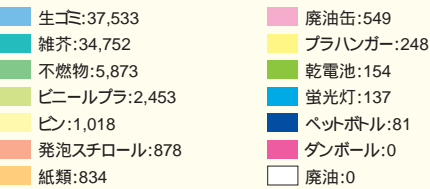
リターナブルビンの取扱量を増やしています。

ビンビールの取扱量を2002年までに1998年度対比40%増を目指して販売強化を進めてきました。ビンビールはリユースシステムが早くから確立され、99%が再利用されています。2002年度は昨年対比102.8%を達成できました。

チラシの削減による紙利用量の推移 (単位:枚)



2002年度の廃棄物内訳(店舗) (単位:t)



(イオン(株)の場合)



3) 地域のために、地球のためにイオンにできること

グリーン購入・調達



< 私たちがめざしているもの >

本当に必要なものを必要な量だけ、できるだけ環境負荷の少ないものを使いたい、そうしたことを常に考えて地球に対する負荷の低減をめざします。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 イオン各社

【活動を開始した時期】 1996年

【活動の成果】 事務用資材、包装・販売用資材、建設用資材のグリーン購入・調達を実施中

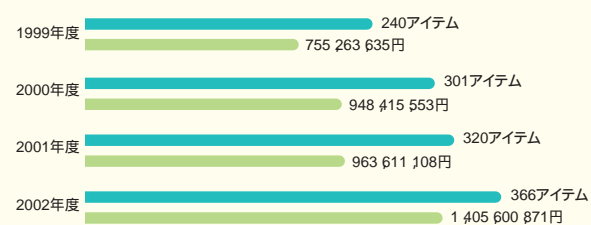
一歩進んだグリーン購入・調達に向かって。

イオンでは1996年よりグリーン購入に取り組んでいます。事務用資材はグリーン購入ガイドラインに合致しているものを資材台帳に載せる、制服はペットボトルの再生素材、チラシは古紙100%、というように、今でこそ当たり前を考えることを、少しずつ取り組んできました。

2001年度からは建設用資材のグリーン調達も開始され再生砕石材など14品目を導入。山形県の三川店から使い始めたりサイクル100%可能で接着材が75%少なくてすむテキスタイル製の床材は、他の新しい店舗においても使われています。



グリーン購入費の推移(イオン(株)の場合)



グリーン購入ガイドライン(商品の選択基準)

環境ラベルを取得したもの

製造段階で環境配慮されたもの

・再生材料、余材、廃材を使用

使用段階で環境配慮されたもの

・使用時の資源、エネルギー消費が少ない
・修繕、部品交換、詰め替えが可能
・包装材、梱包材の原料

廃棄・リサイクルの段階で環境配慮されたもの

・分別廃棄、リサイクル可能
・耐久性があり、長期使用が可能

使用・廃棄の段階で有害物質を出さないもの

本当に必要なものかどうかを見直しています。

どんなにグリーン購入を進めていても、ムダな使い方をしている環境負荷を減らすことはできません。例えば社内会議をペーパーレスで行うために、一部の会議において「電子会議」のしくみを稼働させました。今後、他の多くの会議にも採用していく予定です。



電子会議画面

[メリット]

紙を使わないですむ

各地から会場まで移動しなくてよい
交通費・宿泊費がかからない

会議に集中できる

複数参加が可能となり、コミュニケーションスピードが早くなる

など

2003年度に取り組むこと

グループ全体を見据えた戦略的な視点に立ち、スケールメリットをいかして資材調達の新しい取り組みにチャレンジします。



グリーン購入・調達

<http://www.aeon.info/>

> イオンの環境・社会貢献

> お店を拠点とした環境・社会貢献の取り組み

> 環境を考えた商品を使うこと

物流システム



< 私たちがめざしているもの >

イオンにとって物流ネットワークの再構築は経営戦略の大きな柱のひとつです。高コスト構造からの脱却を図ることで、グローバル競争に勝ち抜くことが大きな目標です。同時にCO₂・NO_x等の排出を抑え、未来の環境へ配慮していきます。

2002年度の実施状況

【取り組んでいる企業】 GMS事業(国内)、スーパーマーケット事業各社

【活動を開始した時期】 2001年度

【活動の成果】 6カ所に物流センターを開設

物流センターを再編成し、見直しをかけています。

126カ所に分散していた物流センターを2004年度までに再編成する予定です。グループ企業との物流の統合を行うことでセンターへの納品車両の集約、配送ルートの見直し等により、配送距離の削減を行い、CO₂・NO_x等の排出をおさえることに取り組んでいます。

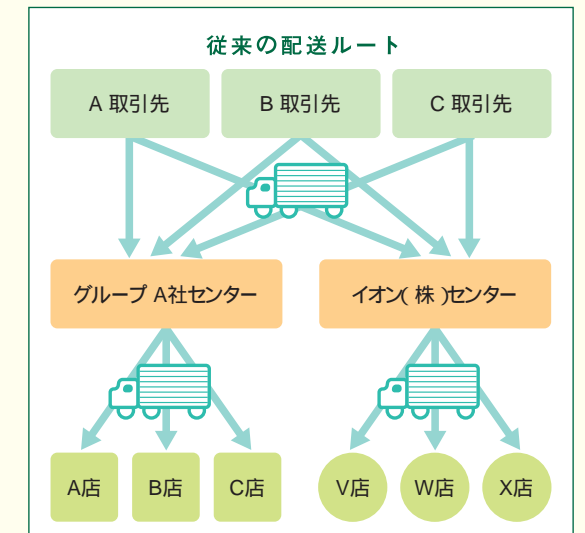
2002年度は6カ所に物流センターを開設しました。

2001年6月仙台RDC稼働を皮切りに、2002年度は6カ所に物流センターを開設しました。新しいセンター稼働後、取引先とセンターとの間、店配送部分等、どのくらいトラックの便数に影響があるのかを、現在検証中です。

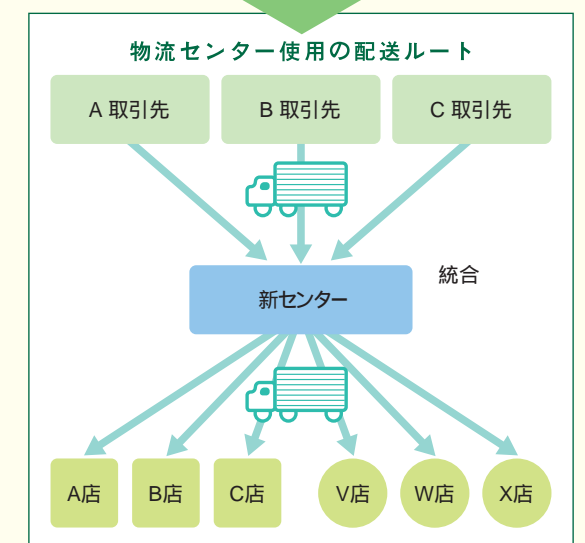
グループ企業でも

様々な取り組みが行われています。

(株)友隣では配送便削減のために「配送便あたりの積載量向上の取り組み」を始めています。マックスバリュ西日本(株)は配送燃料削減のための「配送ルート見直し」に着手。ミニストップ(株)ではCO₂の排出量の少ない天然ガス(CNG)車を1998年から導入し続けています。



改善



2003年度に取り組むこと

2003年度中に物流センターをさらに再編・集約をすすめて環境負荷やコストの削減効果を計っていきます。



物流システム

<http://www.aeon.info/>

> イオンの環境・社会貢献

> お店を拠点とした環境・社会貢献の取り組み

> 地球温暖化を防ぐこと

環境会計をご報告します

2002年度環境会計の特徴	今後の方向性
記載されている数値は、イオン(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ中部(株)、琉球ジャスコ(株)の4社の合算の数値です。 4社個別の数値は、ホームページで確認することができます。 (http://www.aeon.info/) 環境マネジメントシステムの一環として機能させるため、「ISO14001」の環境目標に沿って項目を整理しました。 貨幣効果は、実質的な経済効果のみにとどめ、リスク回避効果などのみなし効果は算出していません。	本年度は4社の集計を報告致しますが、今後はさらに参加公表企業をグループ内で拡大していきます。

2002年度環境会計の算定基準 集計期間:2002年2月21日から2003年2月20日の1年間 集計範囲:イオン(株)、マックスバリュ東北(株)、マックスバリュ中部(株)、琉球ジャスコ(株) 単位 100万円

環境保全基準の計上基準		経済効果の計上基準	
複合コスト	環境目的以外のコストと結合した複合コストは下記の優先順位で算出しています。1.差額の集計、2.按分集計(合理的な考えに基づき複合コストを支出目的により按分)、3.簡便法による集計(人件費項目で採用)、4.特記つき全額計上	省エネルギー対策による削減効果	期中に投資した環境負荷低減の関連機器の年間電気使用量の削減効果(推定)を計上しています。
人件費	環境保全活動に直接関与する部署(環境社会貢献、ISO推進担当)の人件費を計上しています。(担当者が兼務の場合は50%計上)	節水対策による削減効果	期中に投資した節水関連機器の年間水資源使用量の削減効果(推定)を計上しています。
投資	期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額(リース契約の場合は取得価格)で計上しています。	レジ袋使用量削減による効果および薄肉化による効果	(スタンプカード回収枚数×20×1回あたりの使用枚数×レジ袋1枚あたり単価)(買物袋持参率=スタンプカード回収枚数×20/食品レジ通過客数)
減価償却費	過去の資産台帳からの集計作業の困難さや減価償却累計額の取扱い方法の未確定等の問題により、当年度は減価償却額は計上していません。	リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品によるダンボール削減効果	リターナブルコンテナおよびリユースハンガー納品の納入数より削減ダンボール重量(kg)を計算し、削減金額を算出しています。(一般廃棄物処理料金 14.4円/kg)
環境保全型商品および「SELF+SERVICE」の開発費	環境保全型商品の開発担当者(環境商品開発にかかわる比率に準じて按分計上)の人件費と商品モニター経費、および商品パッケージデザイン費が含まれています。「SELF+SERVICE」の開発費としては本部スタッフの人件費とデザインコンサルタントフィーが含まれています。	店頭リサイクル活動による収入	店頭リサイクル活動によって回収した有価物(牛乳パック、アルミ缶)の売却収入額を計上しました。個店毎の調査結果(寄付を除く)による平均売却単価は牛乳パック4.7円、アルミ缶20.6円となりました。(kgあたり)

2002年度の目的・目標		取り組み内容	環境保全コスト		環境保全効果		目標毎の数値集計に含まれる企業				活動の詳細
			2002年投資	2002年費用	2002年経済効果	取組成果(社名の表記のないものはイオン(株)の取り組みを表す)	イオン(株)	マックスバリュ東北(株)	マックスバリュ中部(株)	琉球ジャスコ(株)	
環境に配慮した商品の提供	環境保全型商品の開発・販売	環境保全型商品「トップバリュ 共環宣言」の開発・販売拡大				環境保全型商品「トップバリュ 共環宣言」「トップバリュ グリーンアイ」「SELF + SERVICE」の2002年度の売上は294.7億円で、全売上に占める構成比は1.88%でした。「SELF + SERVICE」は2002年度新たに7店舗出店し、累計で24店舗になりました。またマックスバリュ中部(株)での売上高は10億円、琉球ジャスコ(株)の売上高は8,550万円でした。					P11～P14、P19
	「トップバリュ グリーンアイ」の開発・販売	「トップバリュ グリーンアイ」の開発・販売拡大、契約産地の拡大		45							
	「SELF + SERVICE」の展開	「SELF + SERVICE」の展開・拡大		132							
省エネルギー/ 省資源の 取り組み	電気使用量の削減	省エネルギー設備の導入	302		84	本年度導入の省エネシステム 19店舗(昨年度44店舗) 削減電力量 2.1百万kWh(昨年6.3百万kWh) ナイトシャッター36店舗(昨年60店舗) 削減電力量 0.6百万kWh(昨年2.2百万kWh)					P42
	水道使用量の削減	節水装置・雨水活用システムの導入	27	15	61	本年度実施の節水機器 40店舗で節水コマ(定流量弁)を設置し、23千㎡の節水を行いました。(昨年度87店舗 節水量79千㎡) 雨水活用システム 店舗(昨年度1店舗で9千㎡の節水)の開発はありませんでした。					
	コピー用紙・OA用紙の使用量削減	Eメールの活用、両面コピーの推進									-
	買物袋持参率の向上	買物袋持参運動、マイバッグ、マイバスケット運動の推進強化		189	110	マイバッグ、マイバスケット運動の推進で、買物袋持参率は6.7%(昨年度5.3%)に改善されました。レジ袋の年間削減枚数は5,790万枚(昨年4,269万枚)となりました。					P38～P39
	レジ袋使用量の削減	包装用ポリ袋の厚み変更による減量化				本年度のレジ袋の薄肉化はありませんでした。					-
	物流システムの効率化	配送ルートの効率化、配送便の削減と積載効率の向上									P47
廃棄物の削減と 再資源化への 取り組み	廃棄物の分別化推進	生ゴミ処理機導入によるリサイクル化の推進	99	3	1	本年度は7店舗(昨年度5店舗)に新たに導入し、245tの堆肥処理を行いました。全体では74店舗に導入済みとなりました。全体の堆肥処理量 5,408t (昨年度5,091t)でした。					P45
		発泡スチロール減容機導入によるリサイクル化の推進	11			本年度は3台(昨年度6台)の発泡スチロール減容機を導入し、4tの減容処理を行いました。全体では40台の導入となりました。またマックスバリュ中部(株)でも1台導入し、累計では2台となりました。					
	店舗から排出するダンボールの削減	リターナブルコンテナの活用によるダンボール使用量の削減			163	リターナブルコンテナ863万ケース(昨年度680万ケース)の活用により、店舗から排出されるダンボール11,046t(昨年度8,699t)の削減ができました。					
		リユースハンガー納品によるダンボール使用量の削減			14	リユースハンガー納品1,184万着(昨年度1,148万着)の活用により、店舗から排出されるダンボール947t(昨年度918t)の削減ができました。					
	店頭リサイクル活動の推進	店頭リサイクル活動の推進		155	25	リサイクル回収実績(昨年度実績)は、アルミ缶1,129(938)、牛乳パック1,598(1,422)、食品トレイ767(758)、ペットボトル1,380(1,030)でした。					P40
グリーン購入	グリーン購入基準の策定、実施	グリーン購入基準を策定、実施				事務用品のグリーン購入品目は366品目(昨年度320品目)、1,405百万円(昨年度964百万円)でした。建築資材では、廃材利用タイルやリサイクルカーペットなど14品目についてグリーン調達を実施しました。					P46
植樹活動	「イオン ふるさと森づくり」の継続実施	地域のお客さまと「イオン ふるさと森づくり」の実施	225	166		国内外のショッピングセンターや物流センターに、地域のお客さまとともに、その地域に自生する樹木の苗木を植える活動です。本年度は、372百万円の費用をかけ、17箇所で212千本の植樹(昨年度205千本)を行いました。					P36～P37
法規制の遵守		ばい煙測定・水質検査の実施、容器包装リサイクル法への対応		332		容器包装リサイクル法の再商品化義務委託料として248百万円(昨年度231百万円)を支払いました。(本年度分の415百万円 - 昨年度精算戻り分167百万円) また大気汚染や水質汚濁の防止のためばい煙測定、水質検査を実施しました。					-
		事業系一般廃棄物の適正処理		2,616		店舗・事業所から出る廃棄物を適正に処理するための事業系一般廃棄物の処理委託経費です。					P44～P45
		産業廃棄物処理のマニフェストによる適正処理		1,135		店舗・事業所から出る産業廃棄物の処理委託経費です。(家電製品・家具などの引き取りに関しては132千件の処理を行い、306百万円の経費が発生しました。同様に琉球ジャスコ(株)でも約7,800件で26百万円の経費が発生しました。)					
公害防止のための自主的取り組み		公害(大気・水質・土壌汚染・地盤沈下・悪臭・光害)防止のための自主的取り組みの実施	144	315		主な取り組みとしては、デリカ油防油堤設置、グリストラップの設置・点検・清掃、生ゴミ室冷房装置設置、地下タンク漏洩検査などの費用です。					-
地域密着型の環境コミュニケーション活動		自然保護・美化・景観保持活動		10		毎月11日の「イオン・デー」に実施したクリーン活動などの活動経費です。					P27
		地域のお客さまとの環境支援活動		47		こどもエコクラブの活動、エコロジーマジカル、こどもエコ絵画展の活動費用などです。					P30、P32
		環境情報の公開		936		環境保全型商品のテレビCMや環境展による環境情報の公開費用、環境報告書や環境ホームページの作成費用などです。					-
		環境保護団体への寄付、支援活動		48		イオン牽色の黄色いシートキャンペーン用の資材(投函ボックスや掲示物などで102万円)の経費です。2002年9月、2003年3月には各店の地域のボランティア団体(2,637団体)に合計2,917万円相当の商品を寄贈しました。					P28～P29
環境保全活動の維持管理コスト		従業員への環境教育		5		従業員の環境に対する意識向上のため、また環境マネジメントシステムの運営を円滑に行うため、本年度外部の講師による「内部環境監査員養成セミナー」を開催し、154人(昨年度179人)の内部環境監査員を養成しました。(累計内部環境監査員資格取得人数 561人)					-
		環境マネジメントシステムの維持管理		24		2002年6月に受けたサーベランス(定期審査)費用やISOを推進していくための教材や資材の費用です。					
		環境保全対策組織の人件費		237		本社の環境・社会貢献部担当者、ISO推進担当者と各カンパニー・各事業本部の環境担当者、ISO推進担当者の人件費です。					
環境損傷の修復コスト		土壌汚染、自然破壊への対応		3		食用油流出事故が3件発生しました。いずれも敷地内で処理され、外部への流出はありませんでした。 浄化槽からの汚水流出事故が3件発生しました。店舗の自家発電機のエンジン故障により潤滑油が約90リットル 漏洩しましたが、敷地内ですべて吸着回収しました。					P25

ISO14001の目標と実績をご報告します

イオン(株)の目標と実績

=達成できました =達成できませんでした但努力を続けています

環境方針	環境目的 (2002年度達成を目指して)	2002年度目標		2002年度の実績			
1 環境に配慮した商品の提供に努めます	環境保全型商品の開発・販売をします	ホームファッション・ノンフーズ・書籍&ステーションナリー	環境保全型商品の売上目標 316億円、売上構成比2.0% (トップバリュ 共環宣言、トップバリュ グリーンアイ、SELF + SERVICE) 予算の見直しにより、当初の売上目標327億円を316億円に修正しています	トップバリュ 共環宣言 23.8億円	99.1%		
		農産等		トップバリュ グリーンアイ 270.4億円	98.3%		
		SELF + SERVICE		SELF + SERVICE 8.3億円	86.5%		
		合計		売上合計 302.5億円 (売上構成比 1.93%)	92.4%		
	プライベートブランド商品の容器包装材の環境配慮基準を設定します	プライベートブランドのすべての商品に、基準にそった容器包装「材質」及び「識別マーク」の表示を実施		全社の取り組みとして、識別マークの表示の徹底に取り組む		109.3%	
		プライベートブランドの商品において、古紙率80%以上の外箱ダンボールを全品目の98.5%以上で使用				97.8%	
	環境に配慮した販売方法を推進します	農産品のバラ売り構成比を年間で平均50%達成		43.0%	85.9%		
		水産品で発泡スチロール容器を使用しない商品の拡大(100品目)		100品目達成	101.0%		
		リサイクルボディをさらに50店舗導入		50店舗導入済み	100.0%		
		店舗選択目標	家電リサイクル法施行にともなうマニフェスト伝票の管理徹底	内部監査により定着を確認	-		
家電5年間保証の獲得率 1.4%を達成		1.23%	87.9%				
2 省エネルギー、省資源、廃棄物削減に取り組めます	省エネルギーを推進します	電気使用量を原単位で2001年度対比 2.0%削減 原単位:48.9wh/m ² ・h		原単位 44.0wh/m ² ・h	90.0%		
	省資源を推進します	水道使用量を原単位で2001年度対比 2.0%削減 原単位: 232.8cc/m ² ・h		原単位 204.1cc/m ² ・h	87.7%		
		OA用紙使用のルールを徹底し、正確な使用実績を把握		174,036,250枚の使用	-	-	
		センターから出力される帳票を10%削減 3,984万枚		46,945,599枚の出力	117.8%		
		コピーカウンター使用量 2001年度実績維持 同規模95,715,221枚		96,590,285枚の使用	100.9%		
		スタンプカード回収枚数 2001年度対比 20%増加 (買物袋持参率6.5%達成)		スタンプカード回収枚数2001年度対比32.5%増加 (買物袋持参率6.7%)	102.9%		
		レジ袋使用量 2001年度対比5%削減 売上1億あたり345.5kg		342kgの使用	102.5%		
3 循環型社会形成に向け、リユース・リサイクル・グリーン購入に取り組めます	廃棄物を削減するために、廃棄物の分別を推進します	廃棄商品のトレイ・牛乳パックのリサイクル実施		牛乳パック151店舗、 トレイ195店舗でリサイクル実施			
		店舗選択目標	生ゴミのリサイクル率 17%達成	生ゴミリサイクル率23.7%達成	139.4%		
	家庭での廃棄物を削減するために、店頭での資源回収活動を推進します	店舗選択目標	回収量実績管理 または回収量増加	アルミ缶 1,129,082kg 全規模比 120.3%			
				牛乳パック 1,598,750kg 全規模比 111.2%			
				食品トレイ 767,215kg 全規模比 101.7%			
	店舗から排出するダンボールの削減を行います	リターナブルコンテナ 年間750万ケースの使用		863万ケース	115.0%		
		リユースハンガーでの納品数 1,300万着を達成		11,837,521着	91.1%		
グリーン購入基準を作成し、グリーン購入を実施・拡大します	資材のグリーン購入基準を策定、グリーン購入をさらに拡大		新店に、再生砕石材等、グリーン調達資材を使用	-			
4.地球温暖化防止のためにCO ₂ の排出を削減します	物流システムの効率化をはかります	配送車両の走行距離を2001年度実績 2%削減(原単位)		走行距離 46,500,530km 昨年対比9.4%増加	111.6%		
		CO ₂ 排出量を2001年度対比1営業時間・延べ床面積1m ² あたり2%削減 30.32g/m ² /h		原単位 24.31g/m ² /h	80.1%		
5.地域のお客さまとともに植樹活動に取り組めます	「イオン ふるさとの森づくり」を継続実施します	14箇所に220千本の植樹を実施		17箇所に212千本の植樹を実施	96.4%		
		店舗選択目標	こどもエコクラブ会員数増加	会員数3,510名(2001年比12%増) 154クラブ	-		

2002年度の目標と実績数値については同規模対比で管理しています。

環境方針	環境目的 (2005年度達成)	2003年度目標
1 環境に配慮した商品の提供に努めます	環境保全型商品の売上構成比3.0%の達成	売上構成比2.0%の達成と新たな環境配慮基準の決定
	トップバリュ商品のプラ容器包装の使用量の削減(原単位)	トップバリュ商品における容器包装材のプラスチック使用量の削減に向けて実験を開始する
2 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減に取り組めます	電気使用量を原単位で2002年度対比5%削減	2002年度対比2.0%の削減
	プラ包装資材・紙包装資材を重量ベースで2002年度対比2%削減	2002年度対比0.5%削減
	買物袋持参率30%の実現	買物袋持参率14.5%の実現
	廃棄売上の額を2002年度対比20%削減	2002年度対比5%削減
	生ゴミのリサイクル率30%の達成	生ゴミのリサイクル率25%の達成
	各カンパニー・MV・MGのモデル店舗(6店舗)でゴミの計量・分別を実現し、全店舗に向けた準備を進める	実験店舗の導入を開東エリアで3店舗決め、人時を含めたモデルを構築
	紙排出量を2002年度対比20%削減	働き方改革推進会議を基に本社内のレスペーパーの推進を図る
3 循環型社会形成に向け、リユース・リサイクル・グリーン購入に取り組めます	リターナブルコンテナ(水産用)を導入し、廃発泡スチロールの排出を抑制する	リターナブルコンテナ(水産用)を30品目で使用する(関東カンパニーで下期から導入)
	全事業所(本社・カンパニー・店舗)で紙のリサイクルを実施	全事業所(本社・カンパニー・店舗)での、リサイクル量の実績の把握、並びに実施できていない事業所をなくす
	建築資材のグリーン調達の品目数の増大	新店建設時に、特定のグリーン調達品(7品目)が使用できる施工箇所、それを10%以上使う
	エコストア基準の設定	環境に配慮した店作り(屋上緑化、雨水再利用等)を進める
4 地球温暖化防止のためにCO ₂ の排出を削減します	CO ₂ 排出量を原単位で2002年度対比5%削減。	地球温暖化対策ビジョンを作成する
		関東(東京、神奈川、千葉、埼玉)の規制対応車両導入100%、天然ガス車累計15台の導入
	配送車両をディーゼル規制対応車へ100%切り替える	
5 地域のお客さまとともに植樹活動に取り組めます	「イオン ふるさとの森づくり」継続実施	30ヶ所(店舗 23、物流センター 7)33万本の植樹を実施
6 コンプライアンス(法令遵守)を約束し、受け入れを決めた要求事項を遵守します	土壌汚染を発生させない体制の確立	方針の策定及び施策の決定と実施、検証のプロセス確立

2002年度の活動の総括

イオン株式会社がISO14001を一括認証取得してから3年が経過しました。最大の成果は、一過性の活動としてではなく、全社で計画的・継続的に環境保全活動に取り組む土壤ができたことにあります。私たちの環境保全活動は以前から「お客さまとともに」行うことを大切に考えて展開してまいりましたが、ISOの推進においても同じです。2002年の定期審査では、お客さまとの直接のふれあいの場である各店舗での主体的な取り組みを高く評価していただきました。これはイオンの理念がISO推進にも浸透し、環境保全活動が定着してきたことの証といえましょう。今年度の見直しにおいては、従業員一人ひとりが「意識を変え、行動を変える」ことを中心に、運用を大きく変更いたしました。全社共通の活動から、各部署・各店の「本来業務」に活動のウェイトを移し、全従業員が「業務の一環として環境保全活動に取り組む」ことを目指します。

しかしその一方、残念なことですが、2002年度はイオンの店舗で環境事故が発生し、そのうちの何件かは地域の環境に悪影響を与えるものでした。根本的な再発防止策を即刻導入いたしました。深く反省すべき内容でした。

遵法及びリスクマネジメントについては、情報を共有化し、イオン共通の課題として更に取り組みを強化いたします。

私たちは2003年の事業持株会社への移行に伴い、グループとしての環境保全活動構築を目指します。会社ごとの環境マネジメントシステムから、イオン全体の環境マネジメントシステムへ。ISO14001を共通のツールとし、共通の理念、共通の目的・目標の下、各社の業種・業態にふさわしい形で環境負荷を削減する仕組みへ。さらには社会的責任も包括するマネジメントシステムへ。新たな目標に向け、従業員一丸となって、取り組んでまいります。



環境管理責任者
常務取締役 林直樹

イオン環境マネジメント推進体制について

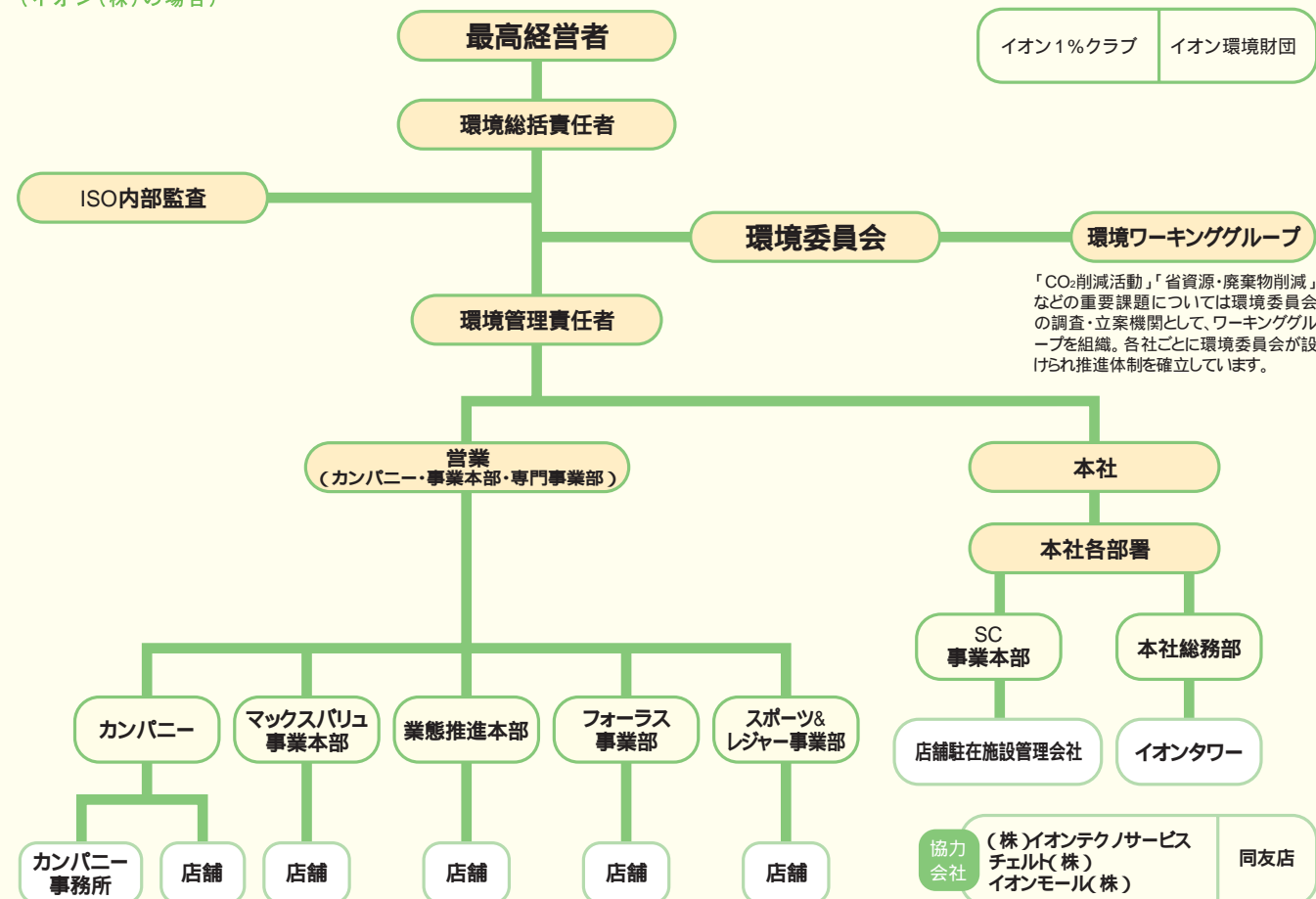
グループ全体で環境マネジメントを推進することを目指しています。

イオンでは、環境保全活動を重要な経営課題として位置付け、事業活動と環境保全活動を一体化した環境マネジメント活動を推進しています。環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得した会社は、2003年2月20日現在で14社となりました。各社で社長を筆頭とした環境マネジメント体制を構築、環境問題を審議する機関として環境委員会を設置、業種・業態特性に応じた課題を設定し、環境負荷の削減に取り組んでいます。またイオンの環境委員会には各社の役員も参加、決定事項がイオンの方針として統一され、グループ全体で共有する仕組みとなっています。目標や理念、仕組みを共有化する一方で、各社の独自性を大切に環境保全活動を推進していきます。

ISO認証取得企業は以下の通りです
(ISO認証取得順)

イオン株式会社	ISO14001
マックスバリュ東北株式会社	ISO14001
株式会社品質管理センター	ISO9002
チェルト株式会社	ISO14001
株式会社フードサプライジャスコ	ISO14001
マックスバリュ西日本株式会社	ISO14001
株式会社ダイヤモンドシティ	ISO14001
マックスバリュ中部株式会社	ISO9001 / ISO14001
アイク株式会社	ISO14001
イオンモール株式会社	ISO14001
九州ジャスコ株式会社	ISO14001
イオンクレジットサービス株式会社	ISO9001 / ISO14001
株式会社友隣	ISO14001
琉球ジャスコ株式会社	ISO14001
株式会社イオンテクノサービス	ISO9002
西九州ウエルマート株式会社	ISO14001

環境マネジメント組織
(イオン(株)の場合)



第三者の評価

2003年 イオン環境・社会報告書について



財団法人地球環境戦略研究機関
理事長 森島 昭夫

2003年度の報告書のタイトルは、これまでの「イオン環境報告書」から、「イオン環境・社会報告書」に変わっています。副題がついて、「サステナビリティ・レポート」となっています。よく知られているように、サステナビリティ(持続可能性)ということばは、10年前にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「国連環境開発会議(UNCED)」で使われたものです。20世紀の大量生産・大量消費によって、世界の資源は枯渇し、環境は破壊されつつあり、このままでは人類は生存できなくなるので、環境保全と開発(発展)とを両立させる持続可能な経済社会を作っていかなければならないことが提唱されました。さらに昨年南アのヨハネスブルグで開かれた「持続可能な世界サミット(WSSD)」では、環境の保全だけではなく、社会の仕組みの変革が求められています。

今年の報告書は、こうした動きを受けて、イオンが、環境保全だけでなく、社会貢献をより重視する姿勢を明らかにしたものとして高く評価したいと思います。とりわけ、これまでの報告書よりもいっそう「お客さまとともに」行動する方針を掲げていることを重視します。「お客さまとともに」開かれた経営を目指し、信頼される商品を開発し、また社会貢献活動や環境保全活動を行なうことが重要です。

小売業を中心とするイオンが持続可能な社会の建設に

貢献するには、お客さまに安全で環境に優しい商品を提供し、お客さまに環境にやさしいリサイクル型の生活を選択してもらうことが最も有効です。そして、お客さまにそのような選択をしてもらうためには、売場の従業員が十分に知識を持ち、必要であればお客さまに説明できなければなりません。

今年も店舗(今年は京都洛南店だけでしたが)を視察させていただきました。例年そうですが、イオンの理念が実際に現場にどのように浸透しているのかを知るためです。

安全・環境保全・リサイクルを目指したイオンの独自商品(PB)トップバリュの数は毎年増加しているように思います。売場もよく目立つところで、面積もかなりを占めています。売場の従業員もPBであることを認識しています。売筋もよいと聞きました。トップバリュには「共環宣言」とか「グリーンアイ」「SELECT」などのブランドがありますが、ブランドのデザインが洒落ているので、本当に環境に優しい商品や安全な食品であることを認識して選択しているのか、お客さまに尋ねたところ、衣類についてはよく分かりませんでしたが、食品については「安心だから」という答えがかえってきました。

廃棄物の減量・処理、トレイ等の回収についても積極的に行なわれていました。

今年の報告書に初めて現れた、段差のない(バリアフリー)、車イスの通行可能な通路の店舗の推進も、「環境・社会報告書」という観点から評価します。視察した店舗もバリアフリーで明るい店舗でした。

私がイオンの環境活動の評価に参加して5年目になりますが、イオンの持続可能な経営方針が確立し、現場でも実践されつつあることを喜んでます。今後いっそう従業員教育の徹底とお客さまとのコミュニケーションの深まりを期待いたします。

2003年3月31日

